

とむろ報所

第33号

—令和元年度事業報告等—



独立行政法人 国立青少年教育振興機構 国立室戸青少年自然の家

— National MUROTO Youth Outdoor Learning Center —

巻頭言

独立行政法人国立青少年教育振興機構
国立室戸青少年自然の家所長
小 野 保

令和元年度に実施した事業等の報告を冊子にまとめました。是非とも御高覧いただき、御意見や御助言を賜りましたら幸甚です。

当施設は、地域の過疎化、少子化、学校行事の過密化による集団宿泊訓練の減少などで、利用者数が減少、稼働率が低迷し、施設を取り巻く環境は厳しい状況にあります。しかし、地域の財産である室戸ジオパークを舞台とした活動や、近年需要が高まっている防災プログラムやイングリッシュキャンプなど、既に人気定着している海の活動以外にも施設の特色を打ち出していき、利用者の確保、増大につなげていきたいと考えています。

また、施設の老朽化とともに、自然災害により施設が壊れる被害も発生していますが、定期的に職員が調査して把握し、対応するようにしています。さらに、子供たちが芸術作品と出会う機会を提供することを通して、子供たちの健やかな成長を支援することを目的に、自然とアートが調和する施設整備を行う「むろと体験の風×アートプロジェクト」も実施しました。

令和元年度の事業等の実施にあたっては、研修指導員やボランティアリーダーの皆様にも多くの支えをいただき、計画を達成することができました。心よりお礼を申し上げます。

これからも、皆様の一層の御支援と御協力をいただきますようお願いいたします。

令和2年3月

目 次

令和元年度事業報告

教育事業

●体験！発見！ジオパーク（マリンスポーツ編）	1
●体験！発見！ジオパーク（防災編）	4
●体験！発見！ジオパーク（歴史・文化編）	8
●むろと元気塾	11
●ボランティア養成講座	14
●ファミリーキャンプ	17
●ジュニアクラブ	19
●夏を満喫 全力キャンプ	21
●親子でスノーケリング	25
●自然体験活動指導者養成研修（NEALリーダー）	27
●自然体験活動指導者養成研修（NEALコーディネーター）	29
●イングリッシュキャンプ	35
●学年とびこえ ぎゅぎゅっとキャンプ	39
●教員免許状更新講習	42
●ふれあい通学合宿	45

むろと黒潮・体験の風をおこそう運動推進事業

●鯨舟競漕にチャレンジ	49
●ジオパーク生き物ウォッチング	51
●室戸くろしお祭り	54
●むろと体験の風×アートプロジェクト	56
●いっしょにあそぼう通信	65

管理運営報告	70
--------	----

広報活動	72
------	----

利用実績	73
------	----

体験！発見！ジオパーク(マリンスポーツ編)

1. 事業の概要

○ 事業の趣旨

室戸ユネスコ世界ジオパークを構成している自然や文化、産業について学ぶ体験活動を通して、青少年のチャレンジ精神、社会性、創造性を育む。

○ 実施期間

令和元年8月23日(金)～令和元年8月25日(日) 2泊3日

○ 対象者・参加者数(人数/定員)

小学4年生から6年生までの児童 23名/21名

○ 活動プログラム

8月23日〔金〕	8月24日〔土〕	8月25日〔日〕
9:30 はりまや橋観光バスターミナル迎え 11:40 室戸市内迎え 12:00 海浜活動センター着 12:10 開講式 12:20 昼食【弁当】 13:00 ヨット学習① 「ヨットを知る」 ・ヨットの名称を知る。 ・セールなしヨットに乗艇する。 ・パドルを使ってヨットを操作する。 ・沈体験をする。 16:30 海浜活動センター発 17:00 自然の家着 オリエンテーション 17:45 夕食【食堂】 19:00 ヨット学習② 「ロープワーク」 ・ヨット乗艇に必要なロープワークを体験する。 20:30 入浴 22:00 就寝	6:00 起床 7:30 朝食【食堂】 8:30 自然の家発 9:00 海浜活動センター着 9:45 ヨット学習③ 「風の力を利用する」 ・風のエネルギーを知る。 ・セールの動きを知る。 ・ヨットの組み立てを体験する。 12:00 昼食【弁当】 13:00 ヨット学習④ 「目的地へ帆走」 ・ヨットに乗艇する。 ・帆走を体験する。 ・ブイ回りを練習する。 16:30 海浜活動センター発 17:00 自然の家着 17:45 夕食 20:00 入浴 22:00 就寝	6:00 起床 7:30 朝食【食堂】 8:30 自然の家発 9:00 海浜活動センター着 9:45 ヨット実践 「ミニ航海」 ・浮き島を目指してヨットを操作する。 11:45 海浜活動センター着 ・片付け・着替えなど 12:30 昼食【弁当】 13:00 閉講式 13:30 海浜活動センター発 ・高知市内送り ・室戸市内送り



2. 活動の様子

< 1日目 >

開講式後、講師として招いたNPO法人YASU海の駅クラブの井土晴喜氏の講師のもと、ヨットの活動を行った。1日目のテーマは「ヨットを知る」ということで、ヨットの名称を説明していただいたり、実際にセールをつけていないヨットに乗艇したりした。また、活動のめあてとして、「みんなで準備、みんなで協力」ということを話し、助け合うことの大切さも参加者に声掛けをして取

り組んだ。とろむに到着すると倉庫からヨットを出し、ヨット1艇に3・4人乗船して活動を行った。「ヨットは楽しそうだけど操作が難しいのでは？」と思っている参加者がいたので1日目は、セールを使わずパドルとラダーを使ってヨットを操作させた。バディと声を掛けあったり、協力し合ったりしながら楽しそうにヨットに乗艇している参加者の姿が見られていた。

夜は、自然の家でヨット乗艇に必要なロープワークを学習した。実際にロープを使って、エイトノットやもやい結び、まき結びなどの結び方を学んだ。最初のうちは、ロープをうまく結ぶことができなかったが、何回も、何回も挑戦して結ぶことができるようになっていた。楽しい中にも真剣に取り組む姿が見られた。

班会では、一日の振り返りをする中で、仲間との絆を深めることもできた。翌日からのヨット乗船を楽しみにしている発言もたくさん出ていた。



< 2日目 >

2日目のテーマは「風の力を感じる」ということで、風のエネルギーやセールの動きを知ることが目的として取り組んだ。午前中は、陸上にあるヨットにセールをつけ、ヨットが風を受ける方向とヨットの進行方向について学んだ。ヨットにセールをつける時、どのバディも前夜に学習したエイトノットを使って準備をした。そして、ヨットを海に浮かべて、実際にセールにどのように風が当たったら前に進むのかを体験した。

午後は、ヨットに1人ずつ乗り、目的地へ帆走する体験を行った。講師の井土さんのアドバイスを聞きながら、ヨットに乗艇していた。ヨットに乗艇する体験を2回したが、乗っているうちにヨットを自分の思い通りに操作できるようになっていた。

その夜の班会では、子供たちからどうすればヨットをうまく操作できるか考えている姿がたくさん見られた。



< 3日目 >

最終日は、「ミニ航海」ということで、2日間の活動で学んだことを活かして、ヨットに乗艇することを目的として取り組んだ。とろむの港に浮き島を作り、ヨットで浮き島まで行き上陸する活動を行った。当日、風が弱く目的地まで帆走するには大変であったが、バディで協力して浮き島を目

指していた。全部のバディが前日の活動を活かして浮き島に上陸することができた。苦労しながらの帆走だったので浮き島にたどり着いた子供たちの顔は満足感でいっぱいであった。

閉講式では、バディごとに3日間のヨット体験について話し合ってもらったが、「自分でヨットの操作ができてうれしかった。」という感想がたくさん出た。ヨット操作は、小学生にとっては少し難しい活動であったが、どの参加者も講師の井土氏の話を一瞬懸命に聞き、ヨットについての理解を深めることができた。



3. 事業の成果と課題

○ 参加者の感想

- ・ヨットの操作の仕方などが分かって楽しかったです。
- ・初めてのヨットだったけど、体験をしているとだんだんと面白くなってきた。
- ・セールの操作が難しかったけど、井土さんのまねをしたらうまく操作することができたのでよかった。
- ・班で協力してヨットの準備をしたり、片付けづけていたので友だちと仲良くなれた。
- ・3日間、たくさんヨットに乗ることができたのでよかった。

○ 事業の成果

- ・室戸岬の海や風などの自然について考えることができたし、ヨットの楽しさを感じることができ、ヨットの楽しさを感じることができた。
- ・どうすればヨットをうまく操作することができるか考えながら活動することができた。また、チャレンジ精神をもってヨット活動に挑戦することができた。
- ・班での活動を通して、仲間と協力し、助け合うことの大切さを学ぶことができた。
- ・ヨット操船に必要な道具の使い方を正しく学び、活用することができた。

○ 事業の課題

- ・指導員の方と事前に打ち合わせをしていたが、天候や風向きなどの影響で内容が変更する場合があった。様々な場面を想定して入念に打ち合わせをすることが必要である。
- ・今回のヨット学習では、NPO法人YASU海の駅クラブの井土専門員の方に指導していただいた。今後もいろいろな施設の方と連携して活動を行い、室戸世界ジオパークへの興味・関心を高めていく必要がある。

体験！発見！ジオパーク(防災学習編)

1. 事業の概要

○ 事業の趣旨

室戸ユネスコ世界ジオパークを構成している自然や文化、産業について学ぶ体験活動を通して、大地の誕生や生命の営みについての興味・関心を高める。

○ 実施期間

令和元年9月21日（土）～令和元年9月23日（月）2泊3日

○ 対象者・参加者数（人数／定員）

小学4年生から6年生までの児童 27名／30名

○ 活動プログラム

9／21（土）	9／22（日）	9／23（月）
9:30 はりまや橋観光バスターミナル発	6:00 起床・洗面	6:00 起床・洗面・清掃
12:00 ジオパークセンター着	6:30 災害時に役立つアウトドアクッキングⅠ （カートンドッグ）	7:00 朝食（食堂）
12:10 昼食	9:00 非常時に食べられる野草の種類と食べ方学習 講師：牧野植物園職員	9:00 学習のまとめ
12:45 開講式	12:00 災害時に役立つアウトドアクッキングⅡ （野草・インスタントラーメン）	11:00 成果発表
12:40 ジオパークセンター見学	13:00 ロープワーク 災害時用テント作り	12:00 昼食（食堂）
14:00 起震車体験	15:00 防災時に役立つアウトドアクッキングⅢ （カレー、ハイゼックス）	13:00 閉講式
15:00 南海トラフ地震学習 講師：中村専門員	19:30 入浴	13:30 自然の家発
16:00 自然の家へ移動	20:00 振り返り	16:00 はりまや橋観光バスターミナル着
17:00 防災食試食体験 （マジックライス）	21:00 就寝 （防災研修棟でライフラインが遮断された生活体験）	
20:00 振り返り		
21:00 就寝 （防災研修棟でライフラインが遮断された生活体験）		



2. 活動の様子

<1日目>

参加した子供たちに開講式の時、「今回の防災学習は、非常時の衣食住を考えて生活をしてほしい。」と伝えてスタートした。開講式後、室戸世界ジオパークセンターの見学を行った。子供たちは、防災学習ということもあって、南海トラフ地震に関係する展示物を見学していた。見学後、室戸世界ジオパークセンターの駐車場で起震車体験を行った。参加したほとんどの子供たちは、学校での防災学習で起震車体験をしていたが、改めて地震の揺れの恐ろしさを体験することができた。起震車体験後、室戸ジオパーク推進協議会地理専門員の中村有吾氏に南海トラフ地震の話をしていただいた。地震の起こる仕組みを学んだ。南海トラフ地震が起こると室戸市は2m隆起し高知市は

1.5m地盤沈下することを聞いてびっくりしていた。地震は場所によって被害が違うことを学んだ。自然の家に帰り夕食の準備を行った。夕食は、防災食（マジックライス五目飯）の試食体験を行った。かまどに薪で火おこしをし、鍋でお湯を沸かした。班で協力をしておいしそうに食べている姿がたくさん見られた。夜は、防災研修棟でライフラインが遮断された生活体験を行った。就寝する前に濡れタオルで体を拭き、レスキューシートに身を包んで21時頃眠りについた。



<2日目>

6時に起床し野外炊事場へ移動して朝食の準備を行った。食材が届くとカートンドック作りに取り掛かった。子供たちは、アルミホイルで包んだパンを牛乳パックに入れ、それを燃やすと簡単にホットドックができることに驚いていた。ホットドックが焦げてしまった子供もいたが、「焦げ目も美味しいよ。」と友だちと話しながら楽しく食べていた。朝食後は本館へ移動し、食べられる野草の種類と食べ方を学習した。高知県立牧野植物園職員の稲垣典年氏に野草のお話をいただいた。子供たちは、野山には食べられる野草がたくさんあることを知った。昼食では、実際にミツバ、ツユクサ、オオバコ、キツネノマゴを湯がき食べてみた。子供たちからは、「思っていたよりも美味しい。」という声が上がっていた。午後からの活動は、ロープワークとカレーライス作りを行った。ロープワークでは、事前に防災に役立つロープの結び方を学び、ブルーシートと竹を利用して、みんなが宿泊できるテントを作った。子供たちは、どういうテントを作ればいいのかみんなで意見を出し合いテント作りに取り掛かった。自主的にアドバイスや指示をする子供、友達に結び方を教えてあげる子供など、防災生活で大切な助け合う姿や協力し合う姿がたくさん見られた。カレーライス作りでは、ハイゼックスと食料保存袋を使用しての調理体験を行った。普段家庭でカレー作りを手伝っている子供もいたが、調理時間がすごくかかったので防災時の調理の大変さを感じる機会となった。夜は1日目と同じくレスキューシートに身を包んで21時頃眠りについた。



<3日目>

最終日は、2日間の防災生活を振り返り、学習の成果を班ごとにまとめた。防災生活を衣食住に分けて模造紙に書いていた。2日間の生活の中で、衣服に関しては、災害はいつ発生するか分からないので就寝の時もすぐに避難できる衣服を着用させた。食事に関しては、生きるために食べると

ということから非常食として野草のことを理解し野草を食べる体験をした。住居に関しては、インフラ（電気・水）が滞る中で工夫した生活を行うようにした。そのことを4つの班がまとめて模造紙に書いていた。その後、班ごとに成果を発表した。発表の中で子供たちは、「防災生活はとても大変だなあ。」「防災食も美味しかったけど、3日目の食堂のご飯はもっとおいしかった。食べ物を大切にしなければいけないなあ。」と感想を述べていた。各班でまとめた模造紙は、室戸世界ジオパークセンターに展示していただく予定である。今回の事業を通して、今後発生するとされている南海トラフ地震に向けて自分なりの対策や準備をいてほしいと願っている。



3. 事業の成果と課題

○ 参加者の感想

- ・防災学習編は、テントを作ったり、ごはんを作ったりしました。本当に災害が起こった時に役立てたいと思いました。普段と違う生活で疲れました。けれど、これからの生活に生かしていきたいです。
- ・初めて起震車に乗りました。震度7は体が5cmぐらい浮きました。怖かったです。
- ・起震車体験は、身動きがとれないほど揺れて怖かった。いろんなことが学べた。
- ・レスキューシートは、うるさくて眠れなかったです。
- ・みんなと協力していろんなことを学べてよかったです。
- ・防災学習をして、物の大切さや協力の大切さを知りました。
- ・一番思い出に残ったのは、みんなと協力して作ったカレーライスです。煙で目も痛かったし、非常炊飯袋で作るのは工夫が必要でした。でも、みんなで作ったカレーライスは美味しかったです。
- ・電気が使えないのは苦労したけど、懐中電灯2つで、みんなで協力できたのはとてもうれしかったです。
- ・野草を食べたけど意外と美味しかった。
- ・道路とか身近に生えている草が食べられることが分かっておどろいた。

○ 事業の成果

- ・起震車による震度体験を通して、実際に地震が起きた時にどういう行動をとればよいか等を考えるきっかけとなった。
- ・高知県立牧野植物園職員の稲垣典年氏に野草についての話をしていただき、様々な野草についての理解ができた。また、実際に野草を食べる活動を通して、災害時を生き抜くための身近な食べ物、食べることの楽しさ、食べ物の大切さについて理解することができた。
- ・防災研修棟でライフライン（電気・水）が遮断された生活体験を行い、日ごろから防災に備えることが重要であることを考えることができた。また、防災生活では一人よりもみんなで協力することの大切さや素晴らしさを感じることができた。

○ 事業の課題

- ・ 今回の事業は、衣食住の食にテーマを置いて活動を行った。子供たちにサバイバル感を味わわせようと思い、自分たちでかまを作ったり、食べられる野草を採取したりする活動を通して「生き抜く力」を身に付けさせようと考えていた。しかし、台風の影響でできなかった。荒天時は危険等が伴うため代替プログラムをどうするかが課題である。

体験！発見！ジオパーク(歴史文化編)



1. 事業の概要

○ 事業の趣旨

室戸ユネスコ世界ジオパークを構成している自然や文化、産業について学ぶ体験活動を通して、大地の誕生や生命の営みについての興味・関心を高める。

○ 実施期間

令和2年2月15日(土)～令和2年2月16日(日) 1泊2日

○ 対象者・参加者数(人数/定員)

小学4年生から6年生までの児童 23名/30名

○ 活動プログラム

2/15(土)	2/16(日)
9:30 はりまや橋観光バスターミナル発 道の駅日和佐発	6:00 起床・洗面・清掃
11:30 吉良川町並み駐車場着	7:30 朝のつどい
12:00 吉良川公民館着 昼食【吉良川公民館】	7:45 朝食
12:45 開講式	8:30 自然の家 発
13:00 吉良川町並み見学・コース下見	9:00 吉良川町並み飛脚レース ※1チーム5名×6チーム参加
14:30 吉良川町並み駐車場発	12:00 昼食【吉良川小学校体育館】
15:00 自然の家着 入所オリエンテーション	13:00 閉講
15:30 備長炭を使った工作 ・備長炭について ・炭の箸置きづくり	13:30 吉良川町 発 高知市内送り 美波町由岐支所送り
17:00 タベのつどい 夕食【食堂】 荷物の移動 自由時間	
19:00 班会 ・炭焼き体験について ・飛脚レースについて	
20:00 入浴【大浴場】	
21:30 就寝準備	
22:00 就寝	

2. 活動の様子

<1日目>

吉良川公民館で昼食と開講式の後、高知県で初めて国の重要伝統的建造物群保存地区に選定されている吉良川町の町並みを見学した。子供たちは、明治期に建てられた漆喰壁の商家や水切り瓦の蔵が立ち並ぶ町並みを見学し室戸市の歴史や文化に触れることができた。吉良川まちなみ館では、色とりどりの雛人形を見学した。石で造られた雛人形、大正時代のお雛様、頭に装飾をほどこした煌びやかなお雛様など、子供たちを夢中にさせたり感心させたりする歴史ある雛飾りをたくさん見ることができた。また、吉良川町には、町並みに南海トラフ地震の痕跡を残す地形などがたくさん



あり、ジオパークセンターの中村有吾専門員の話に興味深く聞いていた。子供たちは、古き良き街並みが残る吉良川町を満喫していた。その後、自然の家に着き、入所のオリエンテーションを行った。工作棟に移動し、室戸市の生活を支えてきた土佐備長炭の学習を行った。室戸市の備長炭の歴史や作り方など、子供たちに炭の魅力を紹介した。また、土佐備長炭を使った箸置きや竹を削って箸を作った。箸作りでは、小刀を初めて使うという子供もいたが友達と協力しながら取り組んでいる姿が見られていた。オリジナルの箸を製作して満足している子供たちの姿が見られた。備長炭の箸置きづくりでは、軍手を真っ黒にしなが、一生懸命にサンドペーパーで備長炭を磨いている姿が見られた。ものづくりを通して、室戸の文化も感じる事ができた。夜の班会では、1日の振り返りと2日目の計画を行った。振り返りでは、室戸市の歴史や文化に触れて、先人の工夫や努力について考える事ができた。2日目は、吉良川町並み飛脚レースに参加するので、班ごとに目標や計画を立てた。



<2日目>

2日目、朝6時に起床し身支度や部屋の清掃を行った。参加者の半数以上が、自然の家の様々な事業に参加したことがある子供たちだったので、何をすればよいのか、どうすればよいのか分かっていたので自分から進んで寝屋の掃除などもしていた。友達と協力しながらトイレ掃除や階段の拭き掃除を頑張っていた。今回で6年生の事業への参加は最後になるが、6年生自ら先頭に立って掃除をしたり下級生に指示をしたりしていた。1日目に、6年生との思い出づくりも大切にしてほしいと話していたが、6年生の子供たちの最上級生としての役割や責任感を4・5年生の子供たちは教えてもらったようである。宿泊部屋の掃除が終わると食堂に移動して朝食をとった。朝食後、バスで吉良川町に移動し、第11回吉良川町並み飛脚レースに参加した。自然の家からは5チーム出場した。朝からの雨で吉良川町を歩いて関所を巡る活動はできなかった。しかし、吉良川小学校の教室や廊下に各関所をつくり飛脚レースを行った。レース開始前にそれぞれの班で作戦を練り、各関所に向かう順番や担当を決めた。レースが始まると挟み箱をバトンの代わりに子供たちは関所を目指した。各関所には、高知県のお座敷遊びのはし拳を取り入れたゲームや室戸深層水についてのクイズなどが行われた。子供たちは、関所ごとに与えられるお題に挑戦した。雨天のために、飛脚レースのルールが少し変わったが、友達と協力し合って活動する姿が見られた。また、仲間との絆も深まった。吉良川の町並みを歩くことはできなかったが、体育館で行われた活動を行うことで地域の方々と触



れ合うことができた。室戸市吉良川町の歴史や人々の暖かさを知る機会となった。



3. 事業の成果と課題

○ 参加者の感想

- ・とても楽しかったです。職員もリーダーも対応が良かったです。
- ・吉良川の町並みを見学して、昔の家の工夫を知って勉強になりました。
- ・雨だったけど、飛脚レース楽しかったです。来年も参加したいです。
- ・吉良川まちなみ館で昔のいろいろな雛人形を見ることができて良かったです。石でできた雛人形にはびっくりしました。
- ・吉良川の町は、南海トラフ地震の津波で神社の場所が変わった話を聞いてびっくりしました。
- ・町並みを見学している時に、津波の後も見ることができて良かったです。
- ・雨だったので仕方なかったけど、吉良川の町並みで飛脚レースをしたかったです。

○ 事業の成果

- ・今回の事業は、室戸市吉良川町の歴史や文化をテーマに体験学習を行った。参加した子供たちは、ジオパークは知っているが、室戸市内に遺跡や南海トラフの痕跡、炭の文化が残っていることは知らなかった。この事業を通して、子供たちに室戸市の新たな歴史や文化を教えることができた。
- ・吉良川町の遺跡や痕跡を歩いて見学した。子供たちへの説明は、室戸世界ジオパークセンターの中村有吾専門員にいただいた。実際に、遺跡や痕跡を見たり、触ったりする活動を通して昔の人々の生活を感じることができた。
- ・飛脚レースに向けて班活動を多く取り入れた。その中で子供たち同士での主体的・対話的な学びができた。自分の思いや考えを伝えるだけでなく、相手の考えを理解しようとする姿も見られた。

○ 事業の課題

- ・今回は、雨天のため吉良川町飛脚レースが体育館で行われた。雨天時でも歴史や文化を体験できるプログラムを考えていかなければならない。
- ・炭の文化を知ってもらうために竹箸や備長炭の箸置きを作った。室戸市の文化である炭を使った工作の種類などを増やしておく必要がある。

むろと元気塾

1. 事業の概要

○ 事業の趣旨

自然体験活動をととして、児童のコミュニケーション能力を高めるとともに自己肯定感の向上を図る。

○ 実施期間

令和元年10月 5日（土）～ 6日（日） 1泊2日

○ 対象者・参加者数（人数／定員）

安芸和光寮を利用している親子 16名／30名

○ 活動プログラム

	10月5日（土）		10月6日（日）
10：30	安芸和光寮発	6：00	起床
11：30	海浜活動センター着	7：15	朝のつどい
11：45	昼食	7：30	朝食
12：30	海の活動準備	9：00	自由時間（おもしろ自転車）
13：00	海浜活動センター発	10：30	野外炊事（ピザ作り）
13：15	とろむ着	13：00	おわりのつどい
	SUP 体験	13：30	自然の家発
	※小学生未満はトレーナー体験	14：30	安芸和光寮着
14：30	とろむ発		
14：45	海浜活動センター着・片付け		
15：30	海浜活動センター発		
16：00	自然の家着		
17：30	夕べのつどい		
17：45	夕食		
19：00	レクリエーション ～20:00 まで （保護者は子育て相談に参加）		
20：00	入浴		
22：00	就寝		

2. 活動の様子

< 1日目 >

昨年度に引き続き、安芸和光寮の親子を対象として、むろと元気塾を行った。今年度は、安芸和光寮の職員を含めた16名が本事業に参加した。まず1日目は、とろむでSUPの活動を行った。初めてのSUP体験であったが、どの参加者も楽しそうに活動することができていた。

また、小学生未満の参加者についてはドルフィンセンターでイルカと触れ合う活動を行った。初めて見るイルカに少し怖がりながらも、イルカのジャンプを見たり、ドルフィンタッチを体験したりする活動を通して、徐々にイルカに慣れることができた。

夜間の活動では、安岡雄三先生を招いての相談会や子供を対象としたレクリエーション活動を行った。相談会では、安岡先生の経験談を中心に、子育てをする中で困っていることや子供への関わり方についての話を聞くことができた。また、レクリエーション活動では、流木クラフトを作ったり、ボランティアリーダーを中心としたゲームをしたりして楽しむことができた。

夜、ベッドメイキングをする際には、職員やボランティアが積極的に声掛けを行い、参加者自身で準備ができるように支援した。

< 2日目 >

2日目は、午前中にミニサイクリング場でおもしろ自転車の活動を行った。1人乗りの自転車に乗ってコースを回ったり、友達と一緒に自転車に乗り、協力してペダルを漕いだりする姿が見られた。初めて自転車に乗る子供もいたが、保護者の方と一緒に乗ることで、安全に活動することができていた。

活動後は、野外炊事棟へ移動し、ピザ作りを行った。みんなで協力して生地を作ったり、野菜を切ったりして準備を行った。その後、できた生地をかまどに入れて10分程焼くことで、1人1枚ずつピザを作ることができた。ピザ作りを通して、友達とコミュニケーションを取りながら、協力して料理を作ることの楽しさを学ぶことができた。

3. 事業の成果と課題

○ 参加者の感想

- ・初めてのSUPがとても楽しかったです。子供達にとって、よい経験となりました。
- ・ピザ作り体験では、ちょうどよい焼き加減で、おいしいピザを作ることができました。
- ・ボランティアの方とたくさん遊ぶことができ、子供達も喜んでいました。ありがとうございました。
- ・夜間の相談会では、日頃悩んでいることについて相談することができ、とても有意義な時間となりました。

○ 事業の成果

- ・野外炊事や海の活動を体験する中で、参加者同士でコミュニケーションを取り、意欲的に関わることができていた。
- ・活動前はSUPに乗ることを怖がる参加者もいたが、仲間と協力して活動する中で、SUPの楽しさを感じることができていた。
- ・保護者相談会では、家庭での生活の問題点について話し合うことで、子供との関わり方を見直すよい機会となった。
- ・保護者の方からは、来年もぜひ同じような活動をしたいとの反応があった。普段とは異なる自然の中での活動を通して、保護者同士で過ごす時間を楽しむことができていた。
- ・職員やボランティアが参加者に対して、挨拶や早寝早起き、食生活の重要性を伝えることで、基

本的な生活習慣を身に付けさせるようにした。

○ 事業の課題

- ・ 今回、安芸和光寮の希望によりＳＵＰの活動と小学生未満の子供を対象としたイルカのふれあい体験を取り入れた。どちらの活動も楽しむことができたが、参加者からは、両方とも活動を行いたかったとの意見も出たため、今後は参加者全員が同じ活動をできるように配慮する必要があると感じた。
- ・ 活動中、決まった子供同士、保護者同士の関わりが多く見られたため、全員で協力して行うことができる活動を多く取り入れる必要があると感じた。

ボランティア養成講座

1. 事業の概要

○ 事業の趣旨

子供たちの体験活動に関わる上で必要とされる野外活動のスキルや安全管理、体験活動の意義や青少年教育施設の取組の実際について、実習や講義を通して学ぶことにより、ボランティアとして子供たちとともに活動し、自然体験活動の楽しさや喜びを伝えることができる青年の育成を図る。

○ 実施期間

平成31年4月27日（土）～平成31年4月28日（日） 1泊2日

○ 対象者・参加者数（人数／定員）

当施設の法人ボランティアとして活動する意思のある者、小学校等が実施する自然体験活動を支援する意思のある高校生以上の者。 （59名／30名程度）

○ 活動プログラム

4月27日(土)		4月28日(日)	
12:30	開講式		つどい・朝食・点検
13:00	普通救命講習Ⅰ(安全管理)	9:00	野外炊事(ボランティア活動の技術)
16:15	青少年教育における体験活動(青少年教育)	12:00	昼食
18:00	夕食	12:45	青少年教育施設の現状と運営(現状と運営)
19:00	ボランティアの活動内容の理解 (青少年教育施設におけるボランティア活動)	14:00	ボランティア活動の意義(ボランティア活動の意義)
21:00	入浴・就寝	15:30	閉講式

2. 活動の様子

4月27日（土）＜1日目＞



実技「普通救命講習Ⅰ」



講義「青少年教育における体験活動」



講義「青少年教育における体験活動」



講義「青少年教育における体験活動」



講義「青少年教育施設におけるボランティア」



講義「青少年教育施設におけるボランティア」

1日目は「普通救命講習Ⅰ」、「青少年教育における体験活動」、「青少年教育施設におけるボランティア」の講義と実習を行った。安全管理のスキルを身につけるために、室戸消防署職員の指導で「普通救命講習Ⅰ」を実施した。心肺蘇生の方法やAEDの使用法などBasic Life Supportについて演習を行った。「青少年教育施設におけるボランティア」では、当事業に連携している高知県立青少年センター、高知県立幡多青少年の家の職員からも事業紹介とボランティア参加の要請があり、法人ボランティアとしての活躍の場を広げるきっかけができた。

4月28日（日）＜2日目＞



演習「野外炊事」



演習「野外炊事」



演習「野外炊事」



参加者集合写真

2日目は、演習「野外炊事」と講義「青少年教育施設の現状と運営」「ボランティア活動の意義」を実施した。演習では野外炊事の基礎的なスキルを身に付けるとともに、参加者の視点、指導者の視点のそれぞれから安全管理の実際や指導技術を習得することができた。

3. 事業の成果と課題

○ 参加者の感想

- ・ボランティアについてよく知れる内容だった。
- ・教材もわかりやすく、勉強になりました。
- ・子供と活動するための知識が得られた。

○ 事業の成果

- ・ボランティアの育成ビジョンのもと、養成講座の位置づけがしっかりとて、ボランティアに伝えるべき内容の整理や、講義の流れがスムーズに進めることができた。
- ・例年通り高知県内の公立青少年教育施設との連携がとれ、当施設以外での活動の場を提供するきっかけを作ることができた。

○ 事業の課題

- ・自主組織「室戸ボランティアリーダー」の働きかけにより、多くの参加者を集めることができた。今回参加できなかった希望者のために追加日程での実施をしたが、十分な日程調整を行う必要がある。
- ・継続して活動してもらうために、リーダートレーニングの案内を通して、定着率を高める働きかけを継続していきたい。

ファミリーキャンプ in むろと

1. 事業の概要

○ 事業の趣旨

家族で自然体験活動を行うきっかけを提供する。

○ 実施期間

第1回 4月27日（土）～4月28日（日）
 第2回 4月28日（日）～4月29日（月）
 第3回 4月29日（月）～4月30日（火）
 第4回 4月30日（火）～5月 1日（水）
 第5回 5月 1日（水）～5月 2日（木）
 第6回 5月 2日（木）～5月 3日（金）
 第7回 5月 3日（金）～5月 4日（土）（※宿泊室満室により開催無し）
 第8回 5月 4日（土）～5月 5日（日）
 第9回 5月 5日（日）～5月 6日（月）

○ 対象者・参加者数（人数）

対象者 未就学児または小学生とその家族 各回14家族程度

参加者数 第1回22名、第2回42名、第3回54名、第4回40名、第5回53名
 第6回29名、第8回28名、第9回59名 合計89家族327名

○ 活動プログラム

	1日目		2日目
14:15	受付	7:15	朝のつどい
14:30	室戸岬ミニクルージング	7:30	朝食（食堂）
17:00	自然の家到着	9:00	むろと廃校水族館見学および イルカの観察へ移動
17:30	夕食（食堂）		
19:00	スノーピークのテント体験	12:00	解散
22:00	就寝		

2. 活動の様子

県内中部から東部の各学校小学3、4年生に対してチラシ配布による広報を行い、全8回の開催で計327名が参加した。1日目の受付では、磯場で採取したヤドカリやカニ、小魚等が入ったミニタッチプールを用意し、待ち時間に室戸の海の生き物とふれあえる場を提供した。ミニタッチプールは参加者に好評で、親子でじっくり観察したり、触れたりする等、楽しむ様子がみられた。室戸岬ミニクルージングでは、参加者が35名を超える回について、2便体制で運航した。参加者は水しぶきをあげて進む船に歓声を上げ初めての乗船に興奮する様子が見られた。乗船中は、海から見える室戸岬の景色に合わせ、研修指導員より室戸の自然と歴史についてのガイドがあり、参加者は興味深く話に聞き入っていた。船に慣れた後半



には、希望する児童を対象に操船体験が行われた。船長と一緒に舵を切ったり、スピードを上げたりするなど、大喜びで操船する児童の様子が見られた。

自然の家での夕食後は、各家族でスノーピーク（アウトドアメーカー）のテント体験を行った。初めて見るテントの中に入り、家族で寝転ぶ様子や備付の椅子とテーブルでくつろぐ様子が見られた。また屋内外に設置してある２種類のテントの構造の違いや、居住スペースの違いなど、大人の参加者も興味深くテントを体験していた。

２日目の退所点検では、各家族の児童同士が協力し、一生懸命に館内を清掃の様子が見られた。その後、参加者はむろと廃校水族館見学、室戸ドルフィンセンターでのイルカの観察に向かい、思い思いに家族の時間を過ごしていた。



３．事業の成果と課題

○ 参加者の感想

- ・初めてのクルージング体験でしたが、眺めもとても良く、家族で楽しむことができました。
- ・クルージングで船長さんに操縦体験をさせていただきました。貴重な体験ができ、子どもも大喜びでした。ありがとうございました。
- ・ロッジで宿泊しましたが、我が子が他のお部屋の子供達とお友達になり、楽しく過ごせました。

○ 事業の成果

- ・ゴールデンウィーク中の空室状況に合わせ参加者を募集し、効果的な利用者の確保ができた。
- ・他の関係機関と連携したプログラム提供を行うことができた。（関係機関以下の通り）
（協力・協賛団体）スノーピークストア高知インター店、スーパースポーツゼビオ高知インター店
室戸ドルフィンセンター、室戸廃校水族館
- ・夜間のプログラムを自主活動とすることで、繁忙期間中の職員負担を軽減することができた。

○ 事業の課題

- ・ミニクルージングの運行において、事前の準備や、事後の片付け作業等で、研修指導員を長時間にわたり拘束するため、負担を軽減する活動内容の検討が必要である。
- ・利用団体が非常に多い期間に、窓口対応や電話対応を行う事業推進係員を２名配置する活動内容であったため、施設で利用者対応を行う職員の負担が大きくなった。他系の職員と連携した、より良い受入れ体制を検討することが必要である。

自然の家ジュニアクラブ

1. 事業の概要

◎事業の趣旨

自然体験活動や集団宿泊体験を通して、青少年の自主性、協調性、社会性を育む。

◎実施期間

令和元年6月1日（土）～2日（日）

◎対象者・参加者数（参加人数/応募人数）

対象者：小学3、4年生の児童（35名／166名）

※参加人数と定員人数は同数である。

◎活動プログラム

1日目（土曜日）	2日目（日曜日）
13:00 はりまや橋バスターミナル 発	7:15 朝のつどい
15:30 室戸青少年自然の家 着	7:30 朝食
開会式	9:00 室戸青少年自然の家 発
16:00 流木クラフト	9:30 ドルフィンセンター 着
17:30 タベのつどい	イルカとのふれあい体験
17:45 夕食	10:30 室戸市 発
18:30 レクリエーション	13:00 はりまや橋バスターミナル 着
19:40 入浴・就寝	

2. 活動の様子

<1日目>

参加者は、自然の家に向かう車内でボランティアリーダーによるレクリエーションを楽しんだ。最初は緊張している参加者も見られたが、自然の家に到着した時には、笑顔も見られるようになっていた。

開会式を経て、流木クラフトを行った。参加者は、班ごとに輪になり、夢中で流木を磨いていた。完成した流木キーホルダーは、1人1人色や形、触り心地が異なっていた。参加者は、お互いの作品を触り合う等をしていた。その後、夕食等を挟み、ボランティアリーダーによるレクリエーションが行われた。この活動の中で、班の仲間の名前を呼ぶ姿や協力してボランティアリーダーが考えた課題に挑戦する姿が見られた。参加者は、宿泊棟に戻ってからも、仲間やボランティアリーダーと今日の出来事を語り合う等、楽しい時間を過ごしていた。



< 2 日目 >

2 日目は、室戸ドルフィンセンターにて、イルカとのふれあい体験を行った。参加者は、普段あまり間近で見ることのないイルカにとっても喜んでいた。途中から始まったインストラクターによるイルカ健康チェックでは、「イルカの体温は何度だろう」等の様々なクイズに、参加者は興味津々の様子だった。そして、イルカのパフォーマンス練習の場面では、参加者は、イルカのジャンプ力や最高速度 60 キロで泳ぐ様子に驚き、歓声をあげていた。このイルカとのふれあい体験では、様々なイルカの様子を間近で観察し、イルカの生態を学ぶことができる貴重な体験となった。最後の活動として、班毎に 2 日間の活動をふりかえり、感じたことを仲間と共有した。



3. 事業の成果と課題

◎ 参加者の感想

- ・新しい友達ができたのでまた来たい。
- ・イルカのことなど知らないことを知れた。
- ・友達ができ、楽しく遊べました。
- ・流木クラフトが上手に作れてよかった。

◎ 事業の成果

○利用促進について

- ・昨年度の参加者を対象外にしたことで、初めて自然の家に来たという子供が複数名いた。

○事業運営について

- ・今年度より新たに活動班・生活班を設けて実施した結果、参加者の統率がとれスムーズに活動が行えた。
- ・活動班、生活班の健康チェック表を用いて事業運営を行ったため、参加者の健康管理ができ、また保護者への伝達も円滑に行うことができた。

○活動プログラムについて

- ・「イルカとのふれあい体験」はこの事業を契機に「イルカの観察」という自然の家の通常の活動プログラムとして実施している。

◎ 事業の課題

- ・本事業は、自然の家の知名度を高めることはできたものの、利用促進に直接つながる成果を得ることができていない。このことから、事業の実施方法や内容等について見直してまいりたい。

夏を満喫 全力キャンプ！（ボランティア自主企画事業）

1. 事業の概要

○ 事業の趣旨

グループ活動を通して子供たちの協調性や仲間意識を高め、楽しく野外活動に取り組む姿勢を育む。

○ 実施期間

ボランティア：令和元年8月13日（火）～令和元年8月19日（月）6泊7日

小学生参加者：令和元年8月16日（金）～令和元年8月18日（日）2泊3日

○ 対象者・参加者数（人数／定員／応募者）

○ ボランティア（18名／—）名

小学4～6年生（19名／20名／39名） 日程短縮によりキャンセル1名

○ 活動プログラム

	午前	午後	夜
8/13（火） ＜前泊1日目＞		12：00 自然の家 着(ボラ) 事前準備	事前準備
8/14（水） ＜前泊2日目＞	事前準備 9：00 送迎バス 発	事前準備 開講式 テント設営 チームビルディング	事前準備 野外炊事 班会 テント泊
8/15（木）＜ 前泊3日目＞	事前準備 野外炊事 基地づくり	事前準備 基地づくり 野外炊事	事前準備 班会 基地泊
8/16（金） ＜1日目＞	事前準備 9：00 送迎バス 発(小学生) オリエンテーリング 野外炊事	12：00 開講式 アイスブレイク テント設営 野外炊事 食材買出し 創作野外炊事	班会 花火 テント泊
8/17（土） ＜2日目＞	海水浴 (東洋町白浜海水浴場)		野外炊事 キャンプファイア テント泊
8/18（日） ＜3日目＞	テント撤収 ふりかえり	12：45 閉講式 送迎バス 発(小学生)	ミーティング
8/19（月） ＜後泊＞	活動反省会	13：30 自然の家 発(ボラ)	

○ 備考

台風10号のため、小学生参加者8/14（水）～8/18（日）4泊5日を8/16（金）～8/

18（日）2泊3日に日程短縮して実施した。短縮前の日程は網掛け内に記述。

2. 活動の様子

<前泊>



ボランティアは予定通り8月13日に集合したが、台風10号接近のため、小学生対象のキャンプは日程を短縮して実施することになった。開催までの3日間は新しい日程での活動プログラムや活動細案の作成とチェックを行った。

<1日目>

19名の小学生を迎え、開講式を行った。今回のキャンプでは最終日の昼食以外は全て野外炊事にて食事を賄う計画である。日程短縮に伴い食事内容も変更となったが、事前に準備した食材を無駄にすることが無いように工夫を凝らした。最初の食事は夏を感じる「そうめん」でお腹を満たした。専属の食事スタッフを置き、栄養面にも十分に配慮されたメニューが期間中提供された。

アイスブレイクを行って緊張をほぐしつつ、これから一緒に過ごす仲間との絆を確かめたのち、翌日の海水浴で使用するライフジャケットのフィッティングを行った。また、海の活動における諸注意も併せて実施した。子供たちは一番楽しみにしている海水浴を控え、目を輝かせながら次々と準備を進めていった。

3日間を過ごすテントを協力して設営したのち、夕食の準備を行った。夕食は餃子パーティ。自分たちでくるんだ餃子を次々と焼いていった。大皿に山盛りになるほど作った餃子もみるみる胃袋の中に納まっていった。子供からは「自分で作った餃子の味はおいしい」「はじめてつくったけど難しくなかった」との声が上がっていた。夕食後は花火を楽しんだのち、就寝した。





< 2日目 >

台風一過の晴天の下、東洋町白浜海水浴場での活動を行った。普段は穏やかな波が寄せる海岸も台風後の大きなうねりが入り込み、打ち寄せる大きな波を楽しむことができた。安全管理体制も昨年度同様に整えられ、安心して活動できるシステムが確立された。昼食は附属するキャンプ場にてカートンドックを調理した。一日丸々、波と戯れながら夏の日差しを満喫する活動となった。



パエリアとホイル焼きの夕食でお腹を膨らませた後は、キャンプファイアを行った。分火した炎は各班の焚火台にうつされ、たき火を囲んで楽しい語らいのひと時となった。

< 3日目 >



早朝からテントサイトの撤収と後片付けを行った。作業の合間の朝食はサンドウィッチとして、子供たちの食欲は最後まで落ちることがなかった。キャンプの振り返りとして、思い出を絵日記にまとめた。テントでの宿泊、海水浴、野外炊事のメニュー、キャンプファイアなど、子供たち

は思い思いの題材で画用紙を彩っていた。

<後泊>

子供たちが帰った後、事業の振り返りを行った。各活動セッションごとに課題と反省点をまとめ、先輩リーダーや職員からアドバイスを受けた。次年度の夏の自主企画を円滑に進めることができるように、問題点の洗い出しと引継ぎ資料の整理を行った。

3. 事業の成果と課題

○ 参加者の感想

- ・ 台風のせいで3日になったけど海水浴があったのが良かった。(子供)
- ・ 思ったより全力が多くて楽しかった。(子供)
- ・ 友達と協力するところが多かったから良かった。(子供)
- ・ 先輩リーダーの動きを身近で見られたのは本当に大きく学ぶことが多かった。(ボランティア)
- ・ リーダーとして、大きなステップアップができた。(ボランティア)
- ・ リーダーとして参加して、子供との接し方について学ぶことができた夏の思い出をつくる手伝いが出来て幸せでした。(ボランティア)

○ 事業の成果

- ・ ボランティア自主企画で子供を対象とした4泊5日の事業を実施している例は他施設にもなく、室戸のボランティア養成における特色の一つとしてあげられる。今年度が2回目の実施となるが、この取り組みが定着するように、次年度以降も法人ボランティアへの適切な支援を進めていきたい。
- ・ 台風による日程短縮や事業実施中のAD職ボランティアリーダーの途中リタイアなど種々の突発事項にも拘らず、前年の経験を活かして円滑に事業を進めることができた。今回の試みとして、専属の食事スタッフを置き、最終日の昼食以外のすべての献立作成と料理指導をこのチームが主導した。大学で管理栄養士課程を専攻している学生が中心となったこともあり、キャンプの楽しみである日々の食事が大変充実したものとなった。

○ 事業の課題

- ・ 開催時期の8月はよさこい祭りや県内公立施設の主催行事などイベントが続き、参加するボランティアリーダーの確保に支障がある。できるだけベストの日程設定を行うことで、多くのボランティアリーダーが参加できるように留意したい。
- ・ 前年度12月のボランティア自主企画を経験したボランティアリーダーが引き続き本事業に参加するが、準備期間のタイムスパンや企画内容の密度など、冬の自主企画事業とは異なるペース・内容で準備段階から進行するため、前回の成功体験や経験則が活かせない例が多く発生する。冬の自主企画事業との差異を十分に明示することで、ボランティアリーダーが最大限の能力を発揮できるよう、職員側の助言・指導・支援をさらに充実させていきたい。
- ・ 台風を含め、悪天候時の代替案を充実させる十分な計画がたてられるようにボランティアリーダーに対して事前段階からの指導助言をさらに進める必要がある。本年度は小学生が対象となる日程のみが短縮となったため、比較的スムーズに代替案への振り替えを行うことができた。円滑な事業実施のために事前の段階で、入念な準備を進めていく必要がある。

親子でスノーケリング

1. 事業の概要

○ 事業の趣旨

親子を対象に、スノーケリングを通して、海辺の生き物や環境への関心を高め、家族間のふれあいを深める。

○ 実施期間

令和元年7月20日（土）～令和元年7月21日（日） 1泊2日

○ 対象者・参加者数（人数／定員）

年長児及び小学1・2年とその保護者13組27名／10組20名

○ 活動プログラム

7月20日〔土〕	7月21日〔日〕
12:45 海の駅とろむ 集合・受付	6:00 起床・洗面・清掃
12:55 海浜活動センターへ移動	7:15 朝のつどい(正面広場)
13:10 海浜活動センター着 着替え、準備	7:30 朝食(食堂食)
13:30 日程説明・活動説明	8:30 自然の家発
13:40 スノーケリングについての説明	8:45 とろむ着、海浜センターへ移動
14:00 スノーケリングマスクの洗浄	9:00 着替え・準備
14:15 マリンブーツに履き替え グローブのフィッティング	9:20 とろむへ移動
14:25 マスクのフィッティング スノーケルクリア練習 ウェットスーツ着用	9:30 スノーケリング
15:00 スノーケリング練習	11:30 活動終了 海浜活動センターへ移動 片付け・更衣
15:50 活動終了・移動・片付け	12:00 おわりのつどい とろむへ移動
16:20 とろむへバス送迎	12:15 参加者解散
17:30 自然の家 着 タベのつどい(正面広場) 夕食(食堂)	
18:30 オリエンテーション(オリ室)	
21:00 就寝	

2. 活動の様子

<1日目>

天候不順が続き開催自体が危ぶまれたが、当日は大きな天候の崩れもなく、無事開催することができた。しかし、予定していた海でのスノーケリングは波が高く中止となり、海浜センターでスノーケリングの基礎をじっくりと学ぶこととなった。実際の活動では、スノーケリングマスクの正しい使い方や保存方法について学んだり、水槽を活用し、親子で協力してスノーケルクリアの練習を行ったりした。初めは上手にできない子供もいたが、繰り返し練習をすることで、正しいスノーケルクリアの仕方を身に付けることができた。その後、水槽の中に実際に入って学んだことを活かしてスノーケリングの練習を行った。親子でバディとなり、お互いを気遣いながら楽しんで練習している姿が多く見られた。



< 2日目 >

2日目は、時折晴れ間ものぞく天候の元、予定通り海へ出でのスノーケリングを行った。海へ出ると、波があったり、水深が深いところがあったりして少し戸惑う子供もいたが、親からの声掛けもあり、海にも徐々に慣れていき、親子でスノーケリングを楽しむ姿が多く見られるようになった。参加者からは、ルリスズメダイやオヤビッチャなどの魚を見つけ歓声が上がっていた。



3. 事業の成果と課題

○ 参加者の感想

- ・ 詳しい道具の使い方から海の生物の話まで聞けて、本当に勉強になった。
- ・ 天候が不順で心配だったが、最後まで楽しく活動できた。機会があればまた参加したい。
- ・ 同年代の子供、親御さんとコミュニケーションがとれて楽しかった。大学生のボランティアの方たちにも本当に助けられた。

○ 事業の成果

- ・ スノーケリングの活動を通して、親子でふれあう機会を多くとることができた。
- ・ スノーケリングの正しい知識や基礎技能を習得することができた。
- ・ スノーケリング活動を通して、様々な海の生き物を観察することができた。

○ 事業の課題

- ・ 親子でスノーケリングでは、10組20人募集のところ、57組132人の応募があり、定員を18組まで増やして対応したが多くの落選者を出すこととなった。ニーズに応じた期間設定を含む複数開催も検討の必要があると感じた。
- ・ 天候が不順で直前になってのキャンセルが数組出た。雨天時もスノーケリングに変わる魅力あるプログラムを準備しておく必要があると感じた。

自然体験活動指導者養成研修(NEAL リーダー)

1. 事業の概要

○ 事業の趣旨

青少年向け自然体験活動プログラムにおいて、子供の発達段階に応じて適切かつ安全に指導ができる自然体験活動指導者（NEAL リーダー）を養成する。

○ 実施期間

令和2年2月19日(水) 日帰り

○ 対象者・参加者数（人数／定員）

自然体験活動を指導する意思のある18歳以上の方 （8名／20名）

○ 活動プログラム

9月27日(木)

09:00 ガイダンス①(0.5h) 09:40 自然体験活動の指導(1.5h) 11:10 対象者理解(1.5h)

12:40 休憩

13:30 自然体験活動の特質(3.0h) 16:40 自然体験活動の技術(2.0h)

18:40 休憩

19:00 ガイダンス②(0.5h) 19:30 認定試験(0.5h)

2. 活動の様子

当初計画では10月12日から2泊3日での開催を予定していたが、台風19号の接近に伴い参加者の安全確保のため、別日程での延期開催とした。参加対象の多数を占める大学生の都合を考慮し、日程を一日に短縮し、高知市内に会場を設け実施することとした。なお、NEAL リーダーの規程カリキュラムのうち法人ボランティア養成事業にて単位数を読替え、日帰り開催とした。

NEAL 制度の仕組み、NEAL リーダーの役割を理解するガイダンスの後、「自然体験活動の指導」では指導者としての基本的な心構えについての講義を行った。

「対象者理解」では対象者理解の必要性和方法、各年齢期の特徴理解、対象者への配慮事項について講義があった。「自然体験活動の特質」では高知城内に活動の場を移し、ネイチャーゲームを織り交ぜながら地域の自然体験活動の特色を理解する内容を学んだ。「自然体験活動の技術」では様々な自然体験活動のプログラム紹介の他、プログラムにはそれぞれの狙いがあり、導入・展開・まとめの構成のなかで魅力的で楽しく感動を伝えられることが大事であることが提示された。講義・演習のまとめとして認定試験を行い、参加者8名全員が合格し、NEAL リーダー



ーダーとしての資格認定を受けた。

3. 事業の成果と課題

○ 参加者の感想

- ・今まで自分の中で気にかかっていたことが解消された。
- ・講義の内容が関心を引くものだった。
- ・少人数で集中でき中身の濃いものであった。
- ・これからの事業で実際に使える話や、リーダーの立ち位置が自分の中で明確になったため、参加して良かったと思いました。

○ 事業の成果

- ・少人数での開催となったが、参加者のこれまでの体験を重視し、各自の内容理解を深める組み立てを行ったことで、参加者から高い満足度を得られた。また法人ボランティアとしてのスキルアップ研修、フォローアップ研修の位置づけとしても実施することが出来た。

○ 事業の課題

- ・当初日程からの延期により、短縮開催となったことから、特に実技面での演習時間を十分に確保することができなかった。9.5 時間の枠内での規定科目にて取り扱える演習・実技には限りがあることから、参加者のニーズを汲み取りながら、講義内容をさらに工夫することで対応したい。
- ・法人ボランティア養成カリキュラムとの抱き合わせにより講習開催が可能となるので、法人ボランティアへの資格取得を推奨する観点からも、今回の事例を参考とした実施形態を検討する余地がある。規程カリキュラムの 18 時間をフルタイムで行う形態の実施に加え、今回の実施形態での開催を月例リーダートレーニングに取り入れることを検討したい。法人ボランティアのスキルアップ研修として最適の内容であり、ボランティアの活動意欲向上につなげることが期待できる。

自然体験活動指導者養成研修(NEAL コーディネーター)

1. 事業の概要

○ 事業の趣旨

自然体験活動事業を企画・運営・評価し、事業の安全管理を行うとともに、NEAL リーダーおよびインストラクターを統括し、事業全体をコーディネートする指導者を養成する。

○ 実施期間

令和元年12月2日(月)～令和元年12月6日(金) 4泊5日

○ 対象者・参加者数(人数/定員)

NEAL インストラクター資格を所持している方(もしくは資格申請中の方) (13名/20名程度)

○ 講師

青木 康太朗(國學院大學人間開発学部 子ども支援学科 准教授)

菊間 彰(一般社団法人をかしや 代表)

西胤 正弘(有限会社カヌースクール九州 代表)

井上 桂(下関市深坂自然の森 所長)

○ 活動プログラム

日程	12月2日(月)	12月3日(火)	12月4日(水)	12月5日(木)	12月6日(金)
8:00					
9:00					9:15～10:00 NEAL資格登録の手続きについて ふりかえり(成松 恵)
10:00		8:30～12:00 対象者理解① 3.5h (菊間 彰)	8:30～12:30 自然体験活動の安全管理 3h 自然体験活動の指導 1h (西胤 正弘)	9:00～12:00 自然体験活動の企画・運営 3h (井上 桂)	10:00～10:30 認定試験 0.5h (成松 恵)
11:00					10:30～ 閉講式・解散
12:00					
13:00	主任講師:全体進行(成松)	12:00～13:30 昼食・休憩	12:30～13:30 昼食・休憩	12:00～13:30 昼食・休憩	
14:00	開講式・ガイダンス 1h 14:00～15:10 (成松 恵)	13:30～14:30 対象者理解② 1h (菊間 彰)	13:30～15:30 自然体験活動の指導 2h (西胤 正弘)	13:30～16:30 自然体験活動の企画・運営 3h (井上 桂)	
15:00					
16:00	15:15～18:15 青少年教育における体験活動 1.5h 学校教育における体験活動 1.5h (青木 康太朗)	14:30～17:30 自然体験活動の特質 3h (菊間 彰)	休憩		
17:00			15:45～17:45 自然体験活動の企画・運営 2h (井上 桂)	休憩	
18:00		夕食・休憩		タベのつどい	
19:00	オリエンテーション 荷物移動・入浴・休憩	入浴	夕食・休憩	入浴	
20:00	19:30～21:00 情報交換会	自由交歓	19:00～20:00 自然体験活動の企画・運営 1h (井上 桂)	18:30～ 成果発表会	
21:00			入浴		
22:00	就寝	就寝	自由交歓		
			就寝		

2. 活動の様子

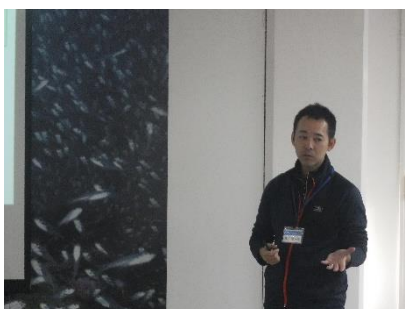
< 1 日目 >

1 日目は開講式の後、主任講師の成松事業推進係員より NEAL 制度の仕組み、NEAL コーディネーターの役割についてのガイダンスを行った。NEAL リーダー、NEAL インストラクターを修了した参加者が、制度についてどの程度理解しているかクイズ形式で確認を行った。その後、日本各地から参加した参加者の特性を活かしたアイスブレイクゲームを行うとともに、自己紹介シートを用いたワークショップを行い、参加者相互の理解を深めた。

ガイダンスの後、講師の青木氏による「青少年教育における体験活動」、「学校教育における体験活動」の講義が行われた。

「青少年教育における体験活動」では、青少年教育の定義を考えることから始まり、現代の子供の体験事情、体験活動がもたらす効果や現代の子供に必要な体験について講義が展開された。参加者は、幼児期の体験活動が非認知能力を高めること、体験を通じて生じる「なぜ」「どうして」を考え行動することが子供の成長の糧となること、体験活動の種類や頻度だけでなく「どのように体験させるか」が重要であることを学んでいた。

「学校教育における体験活動」では、学校教育における体験活動の位置づけ、小学校における集団宿泊活動の現状、学校教育における体験活動の今後の在り方等について講義が展開された。参加者は体験活動と学校教育が想像以上に近い距離にあり、普段子供達と接する先生達が体験活動にどのようなねらいを持ち、期待をしているかを学んだ。また新学習指導要領や中央教育審議会答申に明示された方針や教育の在り方等についても理解を深めた。



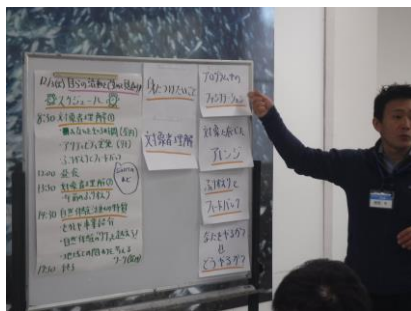
< 2 日目 >

2 日目は菊間氏による「対象者理解」、「自然体験活動の特質」の講義演習が午前午後に分けて行われた。

「対象者理解」では、まず初めに参加者がスキルとして習得しているアイスブレイクゲームを各々に実践させ、参加者同士の交流を深めるとともに、参加者の指導の様子や傾向を菊間氏が観察し

た。その後自然の家の屋外フィールドを全員で散策し、自然の家内の「すりばち広場」にて演習を行った。すりばち広場では、まず菊間氏によるアクティビティが実施された。葉を用いたオリジナルアクティビティで、広場内の「一番大きい葉」「一番小さい葉」「一番匂いの強い葉」「一番可愛い葉」等のお題が与えられ、グループ単位で制限時間内に採集する活動を行った。一つのお題毎に全員が集い、「葉っぱっぱ！」の掛け声で互いのグループの葉を見せ合い、全員で品評した。普段指導者である参加者が体験者となり、生き生きと笑顔で活動する様子が見られた。ふりかえりでは「やってみてどうだったか？」「何か感じることはあったか？」等を発表し、併せて他の参加者や菊間氏が意見を述べた。活動後は参加者自らがアクティビティを考案し、実践する演習を行った。3～4人1組の各グループに分かれ、同広場で可能な15分間のアクティビティを考案し、他の参加者へ実践した。各グループから、特色あるアクティビティが展開されたが、特に「森のお弁当」というアクティビティが非常に好評であった。各グループ発表の度に、「良かった点」「改善点」を付箋に書き出し、参加者から発表者へ渡した。また菊間氏からの講評では、「始まりの寸劇が非常に楽しかった」「説明の言葉が多すぎないか？」「説明が淡々とし過ぎて参加者がワクワクしないものになってないか？」「発表者3人それぞれの個性をもっと出しても良いのでは？」等の助言があった。参加者は普段自施設で評価される側となる機会が少ないこともあり、自身が気付いていなかった指導のクセ等、熱心にアドバイスを聞く様子が見られた。全グループ実施後に菊間氏から、「ねらい」を参加者に言わないこと、「何をやるか」ではなく「どうやるか」（テーマやねらいに合わせて）が肝心であること等が参加者に伝えられた。

その後の「自然体験活動の特質」では、地域と連携する方法についての講義が展開され、菊間氏が実際に今年度連携した今治市の企業との事業紹介が行われた。その後「地域と連携するには？」をテーマに各グループで分かれワークショップを実施した。演習のまとめとして、こちらの願いを地域や連携先に押し付けるのではなく、地域のニーズや課題を把握し、それに寄り添った提案を通じて連携することが求められることを、ワークショップを通じて参加者は学んでいた。



< 3日目 >

3日目は西胤氏による「自然体験活動の安全管理」「自然体験活動の指導」の講義と演習、また夕方から夜間にかけては井上氏による「自然体験活動の企画・運営」が行われた。

「自然体験活動の安全管理」では、個人の安全管理スキルではなく、コーディネーターとして求められる安全管理の体制作りと安全管理に関する関係法規および保険について講義が行われた。はじめに過去の事故事例を基に、「ハインリッヒ法則」や「スイスチーズモデル」から事故発生メカニズムを学び、「mシェルモデル」の理論を基にリスクアセスメントへの理解を深めた。その後は各グループで自組織での安全管理体制の課題を書き出すとともに、どのような対策が有効か考えるワークショップを行った。参加者は互いの施設の取組を情報交換し合い、積極的に学び合う様子が見られた。その後は日本の野外活動事故における判例を基に、傷害保険の適用条件や落とし穴について学んだ。講義の最後には、用意された事故シナリオを基に、事故を起こした施設職員役と記者役に分かれ、模擬記者会見の演習を行った。演習は本番さながらの緊張感で行われ、職員役は記者役に用意された想定外の質問で苦慮する様子が見られた。演習後は参加者相互で意見交換を行った。

「自然体験活動の指導」では、事業遂行に必要な「指導体制(組織編成)」について理解するとともに、指導体制の「整備」について学んだ。はじめに事業における組織体制について講義が行われ、その後、参加者は自らの組織体制について、シートを用いてふりかえるワークを行った。シートの項目には「活動に応じた指導者数や質の高いスタッフ配置の有無」「スタッフトレーニングの有無および内容」「活動中におけるスタッフの共通理解の方法」「各スタッフの役割分担の有無」等多岐に渡り、参加者は自組織の現状を洗い出していた。その後各グループで情報共有と意見交換を行い、課題に対する対応方法についてグループで考え全体に発表した。

「自然体験活動の企画・運営」では、はじめに企画の立て方および留意点、運営に必要な観点、広報計画、評価方法について講義が行われた。企画についてのポイントとして、①プログラムやアクティビティは目的達成のための「手段」であること②目的を達成できる企画であるか③目的を達成できるスキルがあるか④ねらいは明確であるか⑤参加者に適したねらいか⑥年齢や成長段階等を考慮し、参加者に必要とされる内容であるか、等の説明が行われた。またコーディネーターに必要なスキルとして、スタッフを支援・管理・教育するスーパービジョン(スーパーバイズ)についても説明が行われた。運営のポイントについては、①目的・目標・ねらいが全スタッフに共有されているか②リスクマネジメントが明確かつ共有されているか③目的目標を達成できるスタッフ体制が整っているか④効果的な広報手段や広報のタイミング⑤人・物・金の管理は適切か、等について説明が行われた。広報については、公立施設、民間事業者それぞれが行う広報にフォーカスをあて、説明が行われた。評価については、事後アンケート評価や、事前・事後の変容評価、選定された評価者による評価等の方法や、評価のプロセスについての講義があった。参加者は今まで自組織で実施してきた取組、不足していた点を見つめ直し、学び直す機会となっていた。





< 4 日 目 >

前日に引き続き、井上氏による「自然体験活動の企画・運営」が行われた。前日は講義形式であったが、4日目はグループでの演習が終日行われた。まず企画演習を始める前の練習として、講師より学校団体からの企画依頼と称し、学年・人数・希望アクティビティ・気象状況・学校が求めるねらい等の条件が提示され、どのような企画を立てるかのワークが行われた。練習後は各グループに別個のシナリオ(お題)が渡され、シナリオに明示された条件を基に企画立案の演習が行われた。シナリオは小学校からの依頼や旅行会社からの依頼(募集型事業)、県教育委員会からの依頼など多岐に渡り、クライアントが求める「ねらい」や「テーマ」、予算、要望等が指定され、それに見合った最善の企画を各グループで検討した。参加者は1日目からの各講義をふりかえりながら、企画運営に必要な視点と知恵を出し合い、各グループでまとめる様子が見られた。最後の発表では、組織体制、広報方法、事前準備、安全管理体制(緊急時の連絡体制含む)、予算、評価方法など、今までに学んだ視点を全て網羅した発表が行われ、各グループともに非常に練り込まれた企画発表を行っていた。



< 5 日 目 >

最終日は、はじめに主任講師の成松係員よりNEAL資格取得後の申請についての説明が行われた。その後、5日間を通してのふりかえりを行った。参加者からは講習会を通して感じたことや、これから大切にしていきたいこと、自組織に帰って何に取り組んでいきたいかを各々発表した。ど

の参加者からも、意欲が大きく高まり、深い学びを得られた旨の感想が聞かれた。その後、認定試験が行われ、採点の結果参加者全員が合格し、講習会を終了した。



3. 事業の成果と課題

○ 参加者の感想

- ・ 今後、体験活動の指導を行っていく際の自身の立ち位置を考え直すきっかけになりました。
- ・ もっともっと講師お一人ずつに研修時間を長くっていただきたいと思う、大変充実した時間の連続でした。
- ・ 各講義の学びが次の講義につながるようになっており、各講義を受けることで前の講義の復習ができる内容であった。
- ・ 講義もそうでしたが、人と人とのつながりの大切さを実感する5日間でした。
- ・ 座学とフィールドワーク、グループワークのバランスが良かった。
- ・ 事業運営におけるプログラム構成やプログラムのつなぎ方、雰囲気作り等とても勉強になった。
- ・ 講師の方、運営面共に素晴らしかったです。

○ 事業の成果

- ・ アンケートでの事業全体の満足度評価(4段階)は、参加者全員が4の「満足」評価であった。
- ・ 昨年度と講師を変更して運営したが、講師陣や講習内容は参加者から非常に好評であった。今後も継続して講師と連携を密に行い、講義一辺倒とにならない等内容を工夫していきたい。
- ・ 運営において参加者の負担を考慮し、夜間に講義をなるべく入れず、代わりに交流の時間を多く設けることで、講師と参加者、参加者同士や室戸の職員との繋がりが得られ、自然体験活動関係者間のネットワークを広げることができた。

○ 事業の課題

- ・ 一部の講師において、事前に依頼していた内容と逸れる部分があった。講師が活動内容を計画した段階で、改めて依頼内容との整合性を確認する必要がある。
- ・ 主任講師は規定上、全体の監督・確認を行う役割があるが、当日到着した講師との打ち合わせやその他の対応等で、会場から離れる場面もあった。他の職員との運営協力体制を構築し、現場スタッフが居なくなる場面を作らないよう、参加者のケアをしていきたい。

イングリッシュキャンプ

1. 事業の概要

○ 事業の趣旨

外国語を用いた体験活動を通して、異文化・言語に体験的にふれあい、外国語について学ぶ意欲を高めるとともに、外国人とコミュニケーションを図る素養を育成する。

○ 実施期間

令和元年 ① 11月14日（木）～15日（金） 1泊2日

令和元年 ② 11月21日（木）～22日（金） 1泊2日

○ 対象者・参加者数

① 南国市立日章小学校 小学4年生 23名

② 室戸市立羽根小学校 小学4年生 19名

○ 指導者等

国立室戸青少年自然の家職員 1名

NICE 職員 1名

ボランティア 9名

（ポルトガル1名、イギリス1名、オランダ1名、ロシア2名、ベトナム2名、ブルガリア1名、ノルウェー1名）

○ 活動プログラム

	11月14日（木）・21日（木）		11月15日（金）・22日（金）
13:00	学校発	6:00	起床
15:30	自然の家到着	7:30	朝のつどい
	入所オリエンテーション（職員）	7:45	朝食
15:45	ボランティアのレクリエーション （体育館で行う）	8:45	退所点検
17:00	夕べのつどい	9:00	ミッションゲーム
17:15	夕食・自由時間 ・各班のボランティアと一緒に食事をして交流を深める。		流木クラフト
	キャンプファイア ※雨天時：キャンドルファイア ・ボランティアが児童に歌を教え、一緒に歌を歌う。	12:00	昼食 ・各班のボランティアと一緒に食事をして交流を深める。
18:30		13:00	おわりのつどい
		13:15	自然の家発
20:00	入浴	15:45	学校着
22:00	就寝		

2. 活動の様子

< 1日目 >

イングリッシュキャンプ当日は、ボランティア全員で児童を迎え入れた。緊張しながらも、ボランティアと元気よく英語で挨拶をしている児童の姿が多く見られた。入所後は、午後の活動として、体育館でレクリエーションを行った。まず、ボランティアから名前や出身国について、英語で自己紹介を行った。児童はボランティアの話す英語を一生懸命聞き取ろうとしており、話している内容が理解できると嬉しそうな表情を浮かべていた。次に、アイスブレイクの活動を行った。円になり、全員で体を動かす活動を行うことで、児童の緊張をほぐすことができた。フラフープを使った活動やジェスチャーゲームといったグループ活動では、ボランティアと英語を交えながら意欲的に楽しむことができた。活動中は、知っている英語を使ったり、身振り手振りを使ったりすることで、ボランティアとコミュニケーションを取ろうとする姿が多く見られた。夜間の活動では、ボランティアと一緒にキャンプファイアを行った。ブルガリアの音楽に合わせてダンスをしたり、リズムに合わせて体を動かす遊びをしたりする中で、徐々に英語にも慣れ、自ら進んでボランティアと関わるできるようになっていた。



< 2日目 >

朝のつどいでは、ボランティアと協力して国旗掲揚を行った。また、代表者挨拶では、自分の知っている言葉を用いながら、自信をもって英語で自己紹介をすることができた。朝食時は、1日目よりも積極的にボランティアと話すことができ、楽しそうに会話する姿が多く見られた。分からない言葉については、担任の先生に聞くなどして英語を使おうとする意欲的な態度も確認できた。朝食後は、最後の活動として、ミッションゲームと流木クラフトを行った。ミッションゲームでは、グループに分かれ、ボランティアとともに自然の家の施設を回り、7つのミッションに取り組んだ。ボランティアと協力して活動する中で、自ら積極的に英語を使ってコミュニケーションを取り、ミッション達成時には、ボランティアとハイタッチをしながら喜ぶ姿も多く見られた。また、活動中はウォークラリーカードを使用することで、必要な英語を楽しみながら習得することができた。その後、グループに分かれて流木クラフトの活動を行った。これまでの活動を通して、英語を使用することに抵抗がなくなり、お互いに流木を見せ合いながら楽しんで作成することができた。



3. 事業の成果と課題

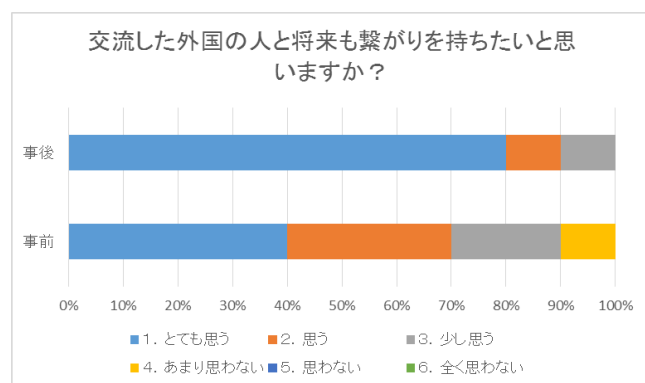
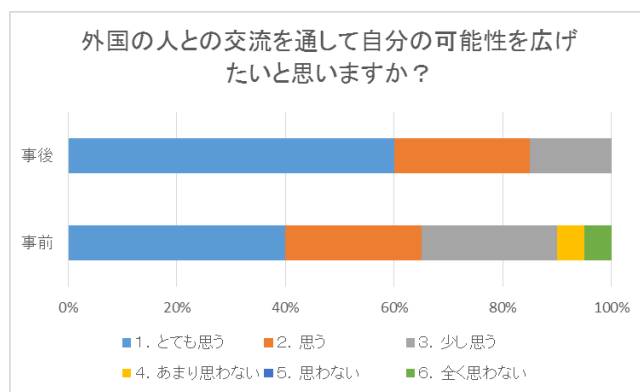
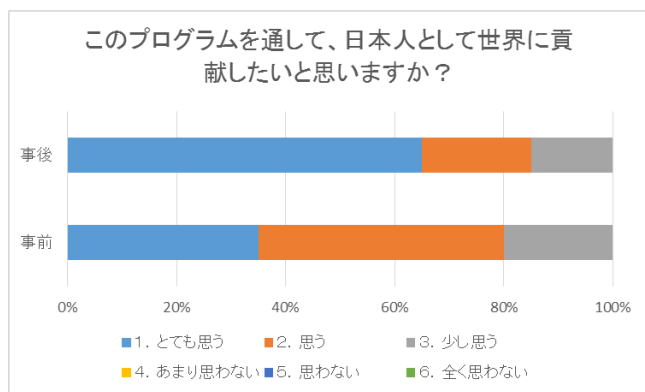
○ 参加者の感想

- ・参加する前は外国人の人と話せるか心配だったけど、一緒に遊んだり話したりして楽しむことができました。
- ・外国人の方たちとレクリエーションや会話をして、とても楽しかったです。また、外国の方と交流したいと思いました。
- ・イングリッシュキャンプとても楽しかったです。帰る時は、寂しくなって泣いてしまいました。今度は2泊3日です。
- ・私は、英語がとても苦手だったけど、ミッションゲームやキャンプファイアをして、少し英語が好きになれたのでうれしかったです。
- ・英語でしゃべっていることは完全には分からなかったけど、何を言いたいイメージすることができました。
- ・ジェスチャーゲームやミッションゲームの時に、分からないことがあったらすぐに分かりやすい英語で教えてくれたり、話してくれたりして、優しいなと思いました。

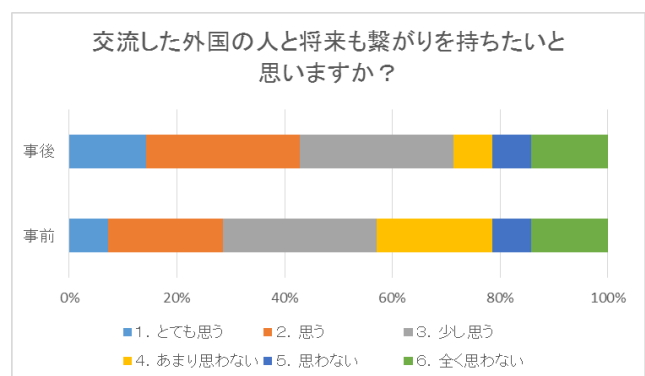
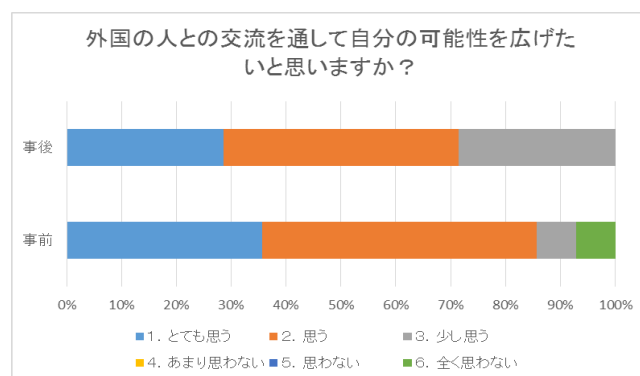
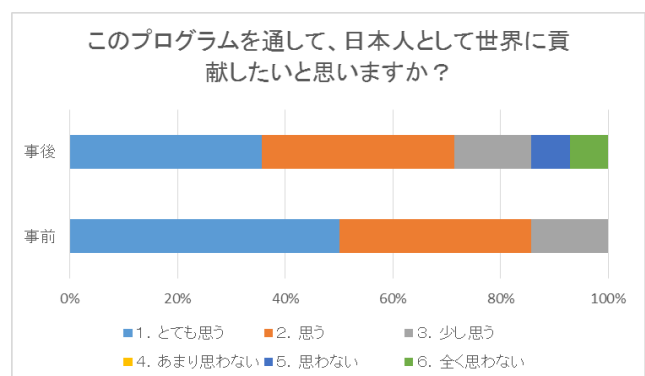
○ 事業の成果

- ・キャンプファイアやミッションゲームといった活動を通して、積極的にボランティアと関わり、自ら英語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を育むことができた。
- ・少人数グループにボランティアを2名ずつ配置することで、英語に触れる機会を通常よりも多くし、充実した活動にすることができた。
- ・英語に苦手意識のある児童に対して、分かりやすい英語を用いることで、活動に取り組みやすい環境を設定することができた。

＜南国市立日章小学校＞



＜室戸市立羽根小学校＞



○ 事業の課題

- ・ ボランティアを継続して受け入れることができるように調整すること。
- ・ 特別な支援が必要な児童について、事前に共通理解を図ること。

学年とびこえ ぎゅぎゅっとキャンプ(ボランティア自主企画事業)

1. 事業の概要

○ 事業の趣旨

他学年との集団行動を通して、自分で考え行動することができる青少年を育成する。

○ 実施期間

令和元年12月14日(土)～令和元年12月15日(日) 1泊2日

○ 対象者・参加者数(人数/定員/申込者)

小学1～6年生 (74名/70名程度/221名)

○ 活動プログラム

	12月14日(土)	12月15日(日)
午前	9:00 送迎バス 出発	朝のつどい 朝食 食材ゲットだぜ! ランチハント
午後	受付 昼食 はじまりのつどい ぎゅぎゅっとチャレンジ(アイスブレイク) みんなであそベンチャー(大運動会) タベのつどい	昼食(調理) おわりのつどい 14:30 送迎バス 出発
夜	夕食 仲間でわいわい、ゲームでわっしょい!! 入浴・就寝	

2. 活動の様子

<1日目>

アイスブレイクで緊張をほぐして班の友達と仲良くなった後、体育館での「みんなであそベンチャー」を行った。小学生全学年が集う事業となったので、低学年でも取り組める、高学年でも飽きが来ない工夫を凝らしたゲームを実施した。



夜のプログラムは体を動かすアクティビティを行わず、穏やかな活動としてパネルを用いた記憶ゲームを設定した。チームで力を合わせ、自分の担当を決めて複雑な形と並べ方を再現していった。グループリーダーのボランティアが次々と出題するパズルに挑戦しながら、チームの絆を深めていった。



< 2 日目 >

昼食に向けての「食材ハント」のためにミッションラリーを行った。施設内に分散して設置されたミッションブースで協力して課題を達成し、食材の手掛かりとなるピースを集めた。難易度の高い課題もあったが、子供たちは協力して回答を見つけ出していた。他の班とも連携しながら、参加者全体でミッションに取り組む工夫も随所に見られた。



手に入れた「豪華なサンドウィッチの具材」をもとに、セルフメイドのサンドウィッチづくりを行った。食味や食感を想像しながら、パンからはみ出すほどの具材を載せる子供や、具材を厳選してシンプルに作り上げる子供など、創意工夫にあふれたサンドウィッチが食卓に並んだ。自分だけのサンドウィッチを口いっぱい頬張り、楽しかった 2 日間の思い出話を語りながらの楽しい昼食となった。



3. 事業の成果と課題

○ 参加者の感想

- ・ いろんなげ一むにちょうせんするところが楽しかった。(1年生)
- ・ 6ねんせいがまちがえてわたしがこたえをおしえてすごい!!ってほめられたのがうれしかった。(1年生)
- ・ みんなとはなしたりおぼえたりあそんだりくいずやうんどうをしてたのしかったです。(2年生)
- ・ みんながぼくのことをよんでくれるのがうれしかったです。(2年生)
- ・ みんなで(班で)協力できてよかった。(4年生)
- ・ 今回初めて参加したけど分からないことがあったらやさしく教えてくれたからうれしかった。(4年生)
- ・ 始めは全ぜん仲良くなかったけど今日は仲良くなって楽しかった。また来たいです。(4年生)
- ・ ねるときに全ぜんしらないのに友だちになれたのでよかった。また来たいです。(5年生)
- ・ はじめはみんながバラバラで思い通りにすすまなかったけれど、この二日間でみんなが一つになって協力できてよかったです。他の班の人とも話したり楽しむことができました。行動するときには自分だけじゃなく他の人も楽しめるように考えることができました。みんなで協力して思いっきり楽しむことができて最高の2日間でした。(6年生)
- ・ 学年の同じ子や違う子でもとても仲良くできた。リーダーの人たちもやさしかった。みんなで協力しあい楽しい時間を過ごせた。(6年生)

○ 事業の成果

- ・ 今回の自主企画では初の試みとして参加対象を小学1～6年生とした。ボランティアリーダーは対象者全体が楽しめる内容とするために、様々な趣向を考え、また運営方法についても事前の検討を重ねて当日に臨んだ。十分な準備の成果もあり、当日は大きなトラブルもなくスムーズな進行であった。
- ・ これまで当施設での事業では参加の機会が少なかった小学1～3年生が対象となったことで、70名程度の募集に対して221名の応募があり、参加決定者を増員して対応した。

○ 事業の課題

- ・ 組織形成、意思決定プロセス形成のスキルに乏しい大学1・2回生が主体となるため、スムーズな運営が行われるためにも職員側の支援が重要となる。本年度は比較的スムーズに進行したが次年度以降も有効な助言・指導ができるように支援を継続していきたい。
- ・ 本年度は大学1回生登録者52名のうち17名(参加率33%)の参加であった。冬の自主企画に参加したボランティアリーダーは以後も精力的に継続して活動するケースに直結するため、次年度も自主企画への積極的な参加を呼びかけていきたい。
- ・ ボランティアリーダーが創意工夫を凝らした企画内容ではあるが、その回限りの一過性のものとなっている。今後、自主企画で行われた内容の中で優れているものは恒常的に研修支援で役立てていく取り組みも必要である。
- ・ 本年度も突発的な別事業があり、場所調整を含めボランティアリーダーに大きな負担をかけることとなった。種々の事情や制約はあるが、ボランティアが最大限の力を発揮できる環境を整えるための理解が必要であると考えます。

教員免許状更新講習

1. 事業の概要

○ 事業の趣旨

教員が体験活動の意義について理解するとともに、児童の集団宿泊活動を効果的に実施するための基本的な体験活動指導法や安全管理のポイントについて実習を通して身に付ける。また、学習指導要領における体験活動の取り扱いを理解し、教育課程の編成や教育活動に取り入れる方法を講義や実習を通して習得する。

○ 実施期間

令和2年2月8日（土）～令和2年2月9日（日）1泊2日

○ 対象者・参加者数（人数／定員）

18名／35名

○ 活動プログラム

2月8日〔土〕	2月9日〔日〕
開会行事、オリエンテーション 講義「学校教育の現状と課題」 高知大学教職大学院教授 高知県教育委員会教育委員 永野 隆史 氏 講義「体験活動の安全管理」 企画指導専門職 松下 泰山 演習「体験活動の技術と指導①」 主任企画指導専門職 田中 徹 講義・実習「体験活動の技術と指導②」 企画指導専門職 田中 剛 講義「体験活動の教育活動への活用」 企画指導専門職 谷岡 守 入浴・就寝	起床・洗面 朝のつどい・朝食 講義「体験活動の意義と学習指導要領」 四国学院大学総合教育センター教授 清水 幸一 氏 講義・演習「体験活動の技術と指導③」 室戸ジオパーク推進協議会地理専門員 中村 有吾 氏 履修認定試験 閉会行事 解散

2. 活動の様子

< 1 目 目 >



講義「学校教育の現状と課題」



講義「体験活動の安全管理」



演習「体験活動の技術と指導①」



演習「体験活動の技術と指導①」



講義・実習「体験活動の技術と指導②」



講義「体験活動の教育活動への活用」

1 日目は「学校教育の現状と課題」や「体験活動の安全管理」「体験活動の技術と指導①」「体験活動の技術と指導②」「体験活動の教育活動への活用」の講義と演習、実習を実施した。「体験学習の安全管理」では、指導者として取り組むべきリスクマネジメント、クライシスマネジメントを理解するため、K Y T（危険予知トレーニング）を行った。また、「体験活動の指導と技術①」では、仲間づくりに活かせるレクリエーション活動として、コミュニケーションゲームを体験学習サイクルにそって実施した。

< 2 日目 >



講義「体験活動の意義と学習指導要領」



講義・演習「体験活動の技術と指導③」



そっくりさんを探せ（室戸岬）



アコウの木見学（室戸岬）



タービダイト見学（室戸岬）



流木クラフト体験（室戸岬）

2 日目は「体験活動の意義と学習指導要領」や「体験活動の技術と指導③」の講義・演習を実施した。「体験活動の技術と指導③」では、「室戸ユネスコ世界ジオパーク」を教材に、「荒波オーケストラ」や「そっくりさんを探せ」等の室戸岬の体験学習プログラムを実際に体験した。また、海岸に流れ着いた流木を使っての「流木クラフト」の体験も行った。

3. 事業の成果と課題

○ 参加者の感想

- ・教育（学びの質）が時代・環境の変化とともに変わってきていること。そして、学校現場が抱えている問題等を改めて考えることのできる時間となった。
- ・安全管理の大切さを改めて感じる事ができた。また、これまで自分が行っていた安全への意識を見直す事ができた。幅広い内容が具体的にまとまっており分かりやすかった。
- ・グループで一つの課題に向けて話し合うことで打ち解ける事ができた。学級でも取り組めるゲームだったので、ぜひ実施したいと思った。ふり返りの大切さも改めて感じた。
- ・直接体験をすることで刺激を受けた。我々教員は、子供たちの成長と幸せを願い仕事をするわけだが、大人自身が探究することの手本となると感じた。自然の力はすごい。

○ 事業の成果

- ・受講後の「免許状更新講習受講者評価書」の評価を見ると、「総合評価」「よい」が 83.3%、「だいたいよい」が 11.1%、あまり十分でないが 5 パーセントであった。講習内容についての満足度は、概ね高い評価を得ることができた。

○ 事業の課題

- ・2 日間で 18 時間の講習を行うため、遠方からの受講者の中には体力面・安全面で不安を抱えながら参加している人がいた。それらの不安を少しでも解消できるような運営方法や全日程の終了時刻について検討していきたい。

ふれあい通学合宿



1. 事業の概要

○ 事業の趣旨

子供たちが家族から離れ、他校の子供と共同で生活し日常的な生活体験を自分たちの力で行うことを通して、子供たちの社会性・自主性などの「生きていく力」の育成を目指す。

○ 実施期間

令和2年2月24日（月）～令和2年2月28日（金）4泊5日（新型コロナウイルスのため期間短縮）

○ 対象者・参加者数（人数／定員）

室戸市内の小学校5・6年生 31名／50名

○ 活動プログラム

		2/24（月）	2/25（火）	2/26（水）	2/27（木）	2/28（金）
朝	6:00 6:50 7:15 7:30 9:00 10:00 11:00		起床・洗面 朝食 登校	起床・洗面 朝食 登校	起床・洗面 朝食 登校	起床・洗面 朝食 登校
昼	13:00 15:00 16:00 16:30	各小学校出発 自然の家着 開講式 オリエンテーション アイスブレイキング	学校 各小学校出発 自然の家着	学校 各小学校出発 自然の家着	学校 各小学校出発 自然の家着	
夕	17:00 17:15 18:30 19:30 20:00 21:30	夕飯のつどい 夕食 学習・読書 班会など 入浴 就寝	夕飯のつどい 夕食 学習・読書 活動 入浴 1日の振り返り 就寝	夕飯のつどい 夕食 学習・読書 活動 入浴 1日の振り返り 就寝	夕飯のつどい 夕食 学習・読書 活動 入浴 1日の振り返り 就寝	

2. 活動の様子

<2月24日（月）>

室戸市内5つの小学校の5・6年生31名の子供たちが参加してふれあい通学合宿がスタートした。午後3時に自然の家のバスで羽根方面・佐喜浜方面へ参加者を迎えに行ったが、ふれあい通学合宿への期待を抱いてバスに乗りてきた。自然の家に到着後、第3研修室でオリエンテーションを行い、ふれあい通学合宿のねらいや目標などを確認した。そして、自己紹介とアイスブレイキングを室戸ボランティアリーダーが行い、他校の子供たちとの交流を深めた。初めて参加した子供た

ちにとっては楽しい活動になり緊張していた表情が和らぐ姿が見られた。その後の夕食でも、班ごとで席に座り、楽しく会話をしながら食べていた。夕食後は、第3研修室に戻り、ふれあい通学合宿の個人目標を模造紙に書き、友達と共有を行った。子供たちの目標には、規則正しい生活を送るための目標がたくさん書かれていた。宿泊棟に移動し、洗濯体験もしてもらう計画をしているので洗濯機の使い方を説明した。入浴後の班会では、健康観察や1日の振り返りを行った。明日からの登校に備えて子供たちは午後9時30分には布団に入り眠った。



<2月25日(火)>

朝6時に起床し布団の整頓をした後、午前6時40分から朝食をとった。子供たちの早い時間帯での朝食を心配していたが、しっかりとご飯を食べている姿が見られた。子供たちの朝食の様子を見ていたが、野菜を食べる子供たちが少なくバランスの良い食事をとることに課題が見られた。朝食後、午前7時15分に自然の家のバスで登校した。子供たちは、自然の家から学校へ登校することになったが、ボランティアリーダーのサポートで無事に登校することができた。登下校の際、ボランティアリーダーと一緒に登校したり、学校へ迎えに行ったりして交通安全面に配慮した。子供たちはボランティアリーダーと一緒に登校することで喜びや安心を感じていたようである。



<2月26日(水)>

学校から下校後、タベのつどいに参加した。子供たちは、国旗や所旗の降納や代表挨拶の仕事を頑張ってやっていた。その後、夕食をとって学習に取り組んだ。学習の目標は、主に学校から出されている宿題を自分の力で集中してやること、学習習慣を身に付けることである。そのために、毎日1時間の学習時間を設けた。前日、時間内に宿題が終わらない子どももいたので、ボランティアリーダーに子供たちの声掛けや学習の進め方を話して支援を指示した。子供たちは、話し声もなく集中して学習を行っていた。全員が時間以内に宿題を終わらすことができた。まわりの友達がまだ

宿題をしているので自分もがんばらなければという気持ちで取り組んでいるように見られた。ただ、学習をしている子供たちを見ていて、鉛筆の持ち方や正しい学習姿勢などが気になった。



< 2月27日（木） >

今回参加した子供たちは、時間を守ることへの意識が強いようである。ボランティアリーダーの声掛けもあったが、「5分前行動」がしっかりできていることに感心した。朝食時間も6時40分から食べることを話しておくで必ず集合することができていた。子供たち同士のかかわりについても、他校の友達と楽しく会話したり、助け合ったりしている姿が見られた。ふれあい通学合宿期間中、途中で具合が悪くなり家庭に帰っていた子供も、元気になったのでふれあい通学合宿にもう一度参加したと保護者から連絡があり、再度参加した子供もいた。友達と一緒に生活することに喜びを感じていたようである。日を追うことに友達との友情が深まり、絆が強くなっていく子供たちの姿が見られていた。



< 2月28日（金） >

ふれあい通学最終日、朝食を食べた後、自然のバスで各学校へ登校した。子供たちのほとんどが、新しい友達ができたと自分のできることが増えたことなどに喜びを表していた。子供たち一人ひとり成長した姿が見られた。バスに乗って帰る時、新しい友達やボランティアリーダーとの別れを惜しむ姿が見られた。5年生の子供たちの中には、来年もふれあい通学合宿に参加したいと言っていた。来年のふれあい通学合宿もすごく楽しみである。



3. 事業の成果と課題

○ 参加者の感想

- ・みんなと仲良く出来て楽しかった。インドネシアの人たちといっぱい話ができうれしかった。
- ・自分から初めての人に話しかけられるようになった。
- ・規則正しい生活ができたしバランスよく食事がとれた。
- ・職員さんのアドバイスもとても分かりやすかったし、これからも教えてもらったことは続けていきたいです。
- ・早寝、早起きができるようになった。これからも続けていきたいです。
- ・時間を守ることや自立することの大切さが分かりました。
- ・自分は恥ずかしがり屋なのでたくさんの人と交流ができて良かったです。気持ちがすごく楽になりました。
- ・友達としっかり交流する時間があつたので良かったと思います。宿題の時間はたっぷりととれていたのが良かったと思います。
- ・いつも人に頼っていたので、これからは自分のことは自分でして、困っている人の助けができるように余裕を持ちたいと思った。
- ・4日間だったけど、みんなといろいろなことをして楽しかったし、本当の自分が知れたっていうか、いろんな人と友達になれてよかった。他の国から来ている人たちもいて、あいさつもできて良かったし面白かったです。

○ 事業の成果

- ・初日に、子供たちにふれあい通学合宿を通して、規則正しい生活の大切さや自立について話して取り組んだ。子供たちは各自が生活目標を持って5日間生活することができた。最終日のアンケートにも自分の成長に気づくことができた子供もいた。
- ・参加した子供たちのほとんどが少人数学級である。活動の中で、コミュニケーション力を高める活動を取り入れた。他者とかかわることが苦手な子供も5日間過ごすことでよりよい関係を築くことができるようになった。
- ・子供たちの意欲を高める声掛けの仕方には、どういうものがあるかを職員とボランティアリーダーで共有して取り組んだ。そのことで、子供たちの活動に対しての意欲が高まり、友達に対しての優しさなどがたくさん見られるようになった。

○ 事業の課題

- ・来年度、1週間行うのであれば、子供の身体面を考慮して土曜日終わりの日程で考えていく必要がある。
- ・各関係機関と連絡を取り合いながら子供たちの為にどんなことができるか考えながら事業を進めていかなければならない。

鯨舟競漕にチャレンジ

1. 事業の概要

○ 事業の趣旨

土佐室戸鯨舟競漕大会に参加するなど、地域の自然や文化に触れる活動を通して、青少年の郷土を愛する心、チャレンジ精神、社会性を育む。

○ 実施期間

令和元年7月13日（土）～令和元年7月15日（月）2泊3日

○ 対象者・参加者数（人数／定員）

小学4年生から6年生までの児童 31名／定員50名

○ 活動プログラム

7月13日（土）		7月14日（日）		7月15日（月）祝日	
12:00	徳島方面迎え出発	7:15	朝のつどい	7:00	清掃・点検
12:00	高知方面迎え出発	7:30	朝食（食堂）	7:15	朝食（食堂）
14:30	鯨館到着・開講式	8:15	バス移動	8:00	バス移動
14:40	鯨館見学	9:00	とろむ到着	8:45	佐喜浜到着
15:10	バス移動		鯨舟競漕大会に参加	9:00	クルージング
15:30	とろむ到着 鯨舟操船練習		昼食（弁当）		（ホエールウォッチング）
16:50	バス移動		大会表彰式		荒天時：海のクラフト
17:20	入所	16:00	バス移動	12:30	昼食（弁当） アンケート
17:30	タベのつどい	16:30	自然の家到着	13:15	閉講式
17:45	夕食（食堂）	17:30	タベのつどい	13:30	バス送迎
19:00	鯨舟に飾る旗を作ろう	17:45	夕食（食堂）	15:30	徳島方面最終下車
20:00	入浴	19:00	入浴	16:30	高知方面最終下車
21:00	就寝	21:00	就寝		

2. 活動の様子

<1日目>

今年度は、高知県・徳島県の小学4年生から6年生の31名が、「鯨舟競漕にチャレンジ」に参加した。今回の事業では、3日間を通して「鯨」に関連付けた活動を行った。まず、1日目は、開講式後、キラメッセ鯨館で鯨について学習した。バーチャル体験やワークショップといった活動を意欲的に行う姿が見られた。その後、海の駅とろむで鯨舟操船の練習を行った。例年通り、チームグリーン・ブルー・レッドに分かれて活動を行ったが、練習当日は風が強く、思ったように鯨舟を操船することができず、苦戦している様子が見られた。

夜間の活動では、鯨舟に飾る旗をチームごとに作成した。それぞれのチームでテーマを決め、相談し合いながら旗を作ることができた。



< 2日目 >

鯨舟競漕大会当日は悪天候の予報であったが、無事実施することができた。今年度は、16レース中13・14番での出場となった。13レースがチームグリーンとレッド、14レースがチームレッドと室戸アンビションFCの組み合わせであった。子ども鯨舟レース開始直後に小雨となったが、どのチームも一生懸命漕ぎ、力を合わせてレースに臨むことができた。結果は第1位がチームブルー、第2位がチームグリーン、そして、第4位がチームレッドとなった。3位と4位の差は、僅か4秒であり、最も白熱したレースを見ることができた。鯨舟のレースを通して、チームの絆をより深め、仲間と協力して一つのことに取り組むことの大切さを知ることができた。大会後は、鯨肉の試食やマグロの解体ショーなどが行われ、鯨舟競漕大会をより楽しむことができた。



< 3日目 >

3日目は、佐喜浜でホエールウォッチングを行った。くろしお号で様々なポイントへ向かったが、残念ながら鯨を観察することはできなかった。しかし、遠くに鯨の影が見えたと話している子ども達も多く見られ、必死に目を凝らしながら観察する様子が見られた。活動後は、佐喜浜に生息している鯨の話聞くことで、鯨に関する知識をより深めることができた。



3. 事業の成果と課題

○ 参加者の感想

- ・みんなで協力して鯨舟を漕ぐことができた。
- ・チームの絆が深まった。
- ・マグロがおいしかった。

○ 事業の成果

- ・大会を通して、チームで協力して活動し、仲間との絆を深めることができた。
- ・「鯨舟競漕にチャレンジ」に参加することで、挑戦することの楽しさを知ることができた。

○ 事業の課題

- ・事前に水着を準備物に加えておくことで、雨天時にも対応できるようにする。
- ・児童の体力に合わせて、ホエールウォッチングの活動時間を調整する。

室戸ユネスコ世界ジオパークの生き物ウォッチング！

1. 事業の概要

○ 事業の趣旨

室戸にすむ野生動物の調査・観察を行う活動を通して、生き物への興味関心を高め、主体的に学ぶ力、観察する力を育む。

○ 実施期間

令和元年9月7日（土）～令和元年9月8日（日）1泊2日

○ 対象者・参加者数（人数／定員）

小学生、未就学児とその保護者

7家族 16名／定員20名

○ 活動プログラム

9月7日〔土〕 曇りのち雨	9月8日〔日〕 雨のち晴れ
12:30 室戸世界ジオパークセンター着（所バス）	5:00 起床
13:00 受付	5:30 ネズミトラップの確認・観察・片付け
13:10 オリエンテーション	6:00 コウモリトラップの確認・観察・片付け
13:25 室戸ジオパークの説明	7:30 朝食
14:15 コウモリの棲む洞窟前にて説明（所バス）	8:30 清掃・点検
15:30 コウモリトラップの設置	9:00 動物カメラの説明
16:15 配宿・入所オリエンテーション	9:30 動物カメラの設置
17:00 ネズミトラップの設置	10:30 生き物のお話
18:00 夕食	11:00 スタッフ挨拶・アンケート記入
19:00 レクリエーション	11:15 終了
20:00 コウモリトラップの見回り	11:30 自然の家発（所バス）
20:30 入浴・就寝	



2. 活動の様子

< 1日目 >

今回の「生き物ウォッチング！」では、高知・徳島方面の4年生から6年生までの小学生、未就学児とその保護者を募集し、計17名が参加した。オリエンテーションでは、参加者とスタッフが自己紹介を行い、今回のイベントで楽しみにしていることを紹介した。その後の室戸ジオパークの説明では、参加者は室戸の海底の地形についてインストラクターの説明を受け、また3Dマップを用いて学習した。

次に、最御崎寺付近にあるコウモリが生息する洞窟の前にて、講師の谷地森先生によるコウモリの生態に関する説明を聞いた。

講師が洞窟で捕まえた2種類のコウモリ（ユビナガコウモリ・キクガシラコウモリ）を間近で観



察した。子どもたちはそれぞれのコウモリの特徴に関する説明を聞き、コウモリの姿を写真に撮るなどして、関心を深めているようだった。

自然の家に移動し、コウモリのトラップを仕掛ける際には、子どもたちもスタッフの指示を聞きながら、初めての道具を一生懸命組み立てて設置していた。

その後は雨が激しくなったため、予定を変更しロッジにて宿泊する部屋の準備と自然の家での生活に関する説明を受け、雨が止んだところでネズミのトラップを設置した。

夕食後のレクリエーションでは「動物交差点」「バットとモス」など動物に関連した3種のゲームを行った。子どもたちは様々な動物の特徴を考えたり、コウモリになりきったりと、楽しく学ぶことができていた。再び雨が激しくなったため、予定されていたナイトハイクを中止し、コウモリトラップの見回りを行ったが、コウモリは掛かっていなかった。参加者からは不安げな声も上がったが、ロッジに戻るとまた親子で楽しく話す様子が見られた。



< 2日目 >

2日目は小雨が降る中、ネズミトラップの確認を行った。トラップには1匹のアカネズミが掛かっており、講師が特徴の紹介と大きさ等の測定を行った。コウモリトラップには、室戸では珍しいテングコウモリが掛かっており、参加者・スタッフ共に満足のいく結果となった。測定を終えて飛び去るコウモリの姿に、参加者からは歓声が上がっていた。



朝食・部屋の片付けを終えた後、動物カメラの使い方に関して説明を聞き、その後カメラの設置を行った。参加者たちは見つけたい生き物を決め、その生き物がどのあたりを移動するかに思いを巡らし、カメラを設置していった。

谷地森先生による生き物の話では、クマやサルなどさまざまな生き物の映像が紹介され、自由に活動する動物たちの様子を見て、参加者たちからは「かわいい!」「こわい!」など動物ごとに多様な感想が寄せられた。スタッフの挨拶の後には全員で写真撮影が行われ、和やかな雰囲気の中、プログラムは終了した。



3. 事業の成果と課題

○ 参加者の感想

- ・コウモリやネズミが無事に見れてよかったと思います。
- ・くまの映像がみれておもしろかった。こうもりがつかまえてよかった。ネズミをまたつかまいたい。自分のわなに入らなかったのがくやしかった!
- ・天気も悪かったですが、たくさんの生き物を見る事が出来て良かったです。また、機会があれば参加したいです。
- ・雨天で大変でしたが、日頃できない体験を子どもたちにさせて頂きありがとうございました。私

も学生の頃、生物部でニホンカモシカを追いかけて回していた事を懐かしく思い出しました。楽しい2日間でした。

○ 事業の成果

- ・ 生きているコウモリとネズミを間近で見ることができ、また、レクリエーションやビデオ映像などで様々な動物の特徴を知ることができ、子どもたちの生き物への興味が深まった。
- ・ 活動が進むにつれて、参加した親子の間だけでなく、子ども同士で話したり、遊んだりする様子が見られるようになり、人と人とのつながりを深めることができた。

○ 事業の課題

- ・ 自然の家職員とジオパークのスタッフ、及び講師の方々とが別々に行動する場面があり、連絡に手間取ったため参加者を待たせてしまう場面があった。スタッフ間の連絡手段やそれぞれの行動を明確に把握できるようにしたい。
- ・ 夜間・早朝の活動はミニバン2台で、2回に分けて送迎を行ったため、一部の参加者を雨が降る中で待たせることとなってしまった。移動手段に関して、活動中は常にバスを使用できるように運転手のスケジュールを調整するなど、対応を検討したい。

くろしお祭り・くろしお200人キャンプ

1. 事業の概要

○ 事業の趣旨

高知県東部地域及び徳島県南部地域の豊かな自然・歴史・文化を体験する活動、宿泊体験、世代間交流などを通して、青少年のチャレンジ精神、創造性、社会性を育む。

○ 実施期間

令和元年10月26日（土）～令和元年10月27日（日）

○ 対象者・参加者数（人数／定員）

くろしお200人キャンプ：小学3～6年生（153名／200名程度）

くろしお祭り日帰り参加者：どなたでも（302名／200名程度）

○ 活動プログラム

	1日目（土曜日）		2日目（日曜日）
12：00	送迎バス出発	6：30	起床
14：30	高知県立室戸体育館	7：30	朝食・清掃
15：45	むろと廃校水族館見学	10：00	オープンデー開会式
17：20	自然の家着		オープンデー開始
	夕食	12：00	昼食
19：30	キャンプファイア （雨天時：キャンドルファイア）	14：00	オープンデー閉会式
	入浴・就寝		オープンデー終了
		14：30	送迎バス出発

2. 活動の様子

<1日目>

くろしお200人キャンプは、くろしお祭りの前泊プログラムとして開催された。参加者は高知県立室戸体育館でアイスブレイクを行った後、むろと廃校水族館を見学し自然の家に入所した。夜のキャンプファイアは、法人ボランティアが企画したゲームやキャンプソングを大いに楽しみ、普段の教育事業では体験できない大規模のプログラムを満喫していた。



<2日目>

今年のくろしお祭り（オープンデー）は、室戸市内外の各種団体、近隣国公立施設の協力を得て、4つの団体による乗車コーナー、8つの団体による体験ブース、4つの団体による物販ブース、3つの団体による演奏・踊り出演などによって構成されたほか、メインイベントとしてアスレ

チック型アトラクションであるニンジャマックスや鮪の解体ショーを開催し、くろしお 200 人キャンプ参加者や当日来場者に、自由にブース巡りをしてもらった。参加者は自分の気に入ったブースでゆっくりと時間を過ごしたり、何度も同じブースにチャレンジしたりする姿が見られた。



3. 事業の成果と課題

○ 参加者の感想

- ・くろしお祭りのストラックアウトや、ニンジャマックスが面白かった。
- ・くろしお祭りでお買い物（イヤリング、押し花のクラフト）ができたのが嬉しかった。
- ・違う学校に新しい友達ができてうれしかった。
- ・班行動でいろんな活動ができて楽しかった。もっときちんと班行動できると思った。
- ・お祭り全部楽しかった。

○ 事業の成果

- ・早い時期から周知活動を継続した結果、2016 年以降最も来場者の多いくろしお祭りとなった。
- ・くろしお祭りを地域連携型のイベントにするとともに、くろしお 200 人キャンプの参加者が自由に買い物をできるようにしたことにより、参加者と出展者双方の満足度が高いイベントにできた。

○ 事業の課題

- ・くろしお 200 人キャンプは参加者が多く、送迎バスの乗降や活動中の移動及び人数確認が想定外に時間がかかってしまうことがあったため、活動プログラムの工夫が必要と考えられる。

むろと体験の風×アートプロジェクト

1. 事業の概要

○ 事業の趣旨

自然とアートが調和する施設整備を行い、子供と芸術作品が出会う機会を提供することを通して、子供たちの健やかな成長を支援する。

○ 実施期間

令和元年12月13日（金）～令和元年12月19日（木）

○ アーティスト人数

8名

○ 活動内容

自然とアートが調和する施設整備

東京藝術大学大学院博士後期過程在籍の一ノ瀬健太氏及び東京藝術大学の学生を中心としたアーティストを募り、国立室戸青少年自然の家の本館の壁面に作品（壁画）を創作する。完成した作品は、国立室戸青少年自然の家の利用者が自由に鑑賞できるようにする。

2. 事業の成果と課題

○ 事業の成果

- ・高知県内だけでなく県外からの作品見学者もあり、様々な方に芸術作品に触れる機会を提供することができた。
- ・室戸市や県内外から利用する青少年たちが、芸術作品に接する機会が増えるで、青少年の感性を育み、健やかな心の成長の支援に寄与した。

○ 事業の課題

- ・当施設は室戸岬半島に位置し、標高300mという立地条件のため、強風にさらされることも多く、雨天時には湿度も高いため作品の制作が不可能になる。そのため、実施期間や時期について検討が必要である。

3. 活動の様子や作品について

『室戸 vaporwave』



一ノ瀬 健太

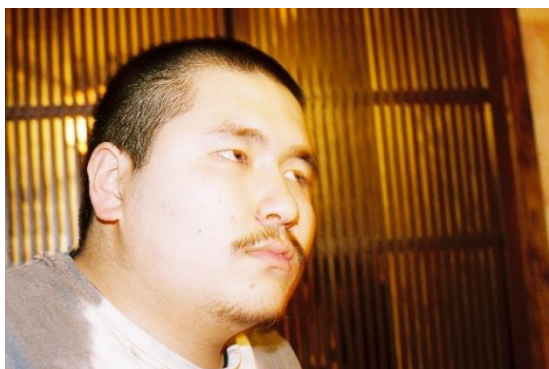
・東京藝術大学
大学院美術研究科
芸術学科美学専攻
博士後期課程 4年

室戸の波を今流行りのオシャンティな音楽的ノリで描いたネオ浮世絵です。高知県は今も南海トラフ地震に備え防災体制を強化しています。天災は忘れたる頃来る、ということばの通り、日々うすれがちになるのが防災意識です。この作品はそうした普段忘れがちになる防災意識を日常に取り戻してもらう役割を担ってほしいと思い制作しました。この施設を訪れた青少年たちが、実際の津波の高さを、臨場感を持って体験してくれたらありがたいと思います。避難タワーを飲み込むような大きな波の存在を日々の生活の中でも忘れずにいてくれるとうれしく思います。

造詣の工夫としては、単純にリアルな津波を描いても面白くないと思いましたので、デフォルメを行い自分流にアレンジしてみました。実際、深夜の現場で作業をしていると、丑満時に背筋がスーっとゾクゾクしてきます。絶対の静寂の時間滞。海で生きてきた船乗りたちの霊が自分に宿ってくる感覚に陥りました。今、生きている子どもたちを守とうせ。自然の怖さを、美しさを教えちゃってよ。海の上で死ぬ時、船乗りたちは何を考えていたのか、何度も反芻しながら船乗りたちの最後の瞬間を想像してみました。やっぱり、陸のおっかあのことや子どものことを考えていたのかなあ～、と思います。ぜひ、いつ津波が来ても大丈夫な生き抜く知恵を、この施設で身につけてもらえればと思います！自分の命、そして大切な家族や仲間の命は、自分で守りましょう！



作品コンセプト



岡口 巽

・ 染織家

この作品は旅行者である私たちが、唯一残せる「足跡」を作品にしました。黄色が自然を、水色が太平洋の海を、赤が私たち人間の生活を表していて、そこを踏んでいった「足跡」が色を混ざり合わせ、形作っています。

ここに車で来る途中、右手には地平線が広がっていて、そこに太陽が沈んでいました。左手には古くなった家屋や倉庫、いまは営業していないお店が並んでいました。

旅行者としての私たちがこの土地を訪れる時、この土地には何の影響も与えられません。私たちが感激したことも、残念に思ったことも全て関係なく、現地の人たちの生活は続いて行きます。私たちが旅行から帰って日常に戻るように、そこにはただ日常があるのです。

だからこそ、唯一残せる「足跡」こそが、旅行者である私たちの残せる作品であり、私の今回の作品でもあります。

『\$howgo Edgar 』



作品コンセプト



竹内 章悟

「室戸の空と海の境界、夕景を描いた。」

1つ1つの作品それぞれにコンセプトは無い。コンセプトではなく大事なのはカルチャー。現代社会で哲学は皆が抱えているものに成ったと思うから。

音楽、映画、街。

外に出かけて木炭でスケッチをするよりも電車で携帯をいじる行為の方が当たり前の環境に育ってきた。iPhone 越しに見つけた雑多な情報と東京の有機的で無機質な感じ。

地元の山。幼少期のイギリスの田舎。無線で聴く音楽。アパレルメーカーやミュージックシーンで頻繁に使われるフィーチャリングやコラボやリミックスといった感覚で個人的にキラキラしたものを描く。心地良い軽さを大事にしたい。

『ハマユウ』



作品コンセプト



三宅 世梨菜

- ・名古屋芸術大学西キャンパス
美術領域 助手
- ・学校法人河合塾美術研究所
基礎中学 講師

市花のハマユウを描きました。

広大な空と山々の緑に囲まれたスタイリッシュな建築の中に更に自然のものを大きく取り込んでみようと思いました。この場所は多目的室に面し、活気に溢れていることはもちろんクリエイションの導入とまとめの場でもありました。そんな様子を間近で見て、豊かで多様な閃きが生まれることを願ってエネルギーに描きました。

ヒガンバナ科であるハマユウの生態は様々な特徴があり、毒性を持つこと、花束のようなフォルム、群生するなどの面白い夏の花です。

また、ここは多くの利用者が日常的に往来する通路であり、活動と休息の切り替え地点でもあります。たまたま、この空間の壁の角度が屏風を開いた様子に見えたため、間仕切りとしての屏風の機能に見立てようと思いました。すると他の壁も欄間や障壁画に見立てられたので、日本間の様式とコンクリート張りの現代的な様式を組み合わせました。天井のマス目にも手が届けばと思い馳せながら…。

ぜひ奥から手前、手前から奥へと行き来したり、居留まったりしてご覧ください。

西寺に赴いたときにハマユウの風景画を見つけました。誰が描いた作品なのでしょう。夏、室戸岬で辺り一面に群生するハマユウが見てみたいと思います。



作品コンセプト



善養寺 歩由

アーティスト・イラストレーター
東京藝術大学
美術学部 デザイン科 1年

室戸自然の家が青少年教育施設であることから、作品を通して若い人達に多様性を植えつけることを目的としてこの壁画を制作した。

制作時にインドネシアの漁業研修生や、小学生から大人まで幅広い年齢の人がいたことなど、この施設には様々な人が訪れる。そのような場所で人種、性別、文化には1つの明確な正解があるわけではないということを自然と感じられるように意識した。

また、私はここで実際に過ごす中で、自然と共に外界から距離を置いた穏やかな時間を体感することができた。そんな場所に通信機器として存在する公衆電話を『外界への窓口』の象徴とし、ここ室戸自然の家から室戸が更に多くの人に知られ、愛される場所になるようにという願いを込めた。

『untitled』



作品コンセプト

高知県で実際に見た景色からインスピレーションを得てクジラや動物たちをモチーフに絵を描きました。

この絵を見て動物を漁ったり狩ったりすることについて考えるきっかけになってくれたら良いなと思います。

鎗水 智建

東京藝術大学美術学部油画科 3 年

『非（日）常口』



作品コンセプト

「普段は使われない非常口」

実は誘導灯の裏側に日常から抜け出すためのもう一つの非常口があることを知る人は少ない。



越智 俊介

画家

『think...』



作品コンセプト

”黒字を招く”という意味で縁起物とされている黒達磨に DOPE・WACK などのスラングを合わせることで黒達磨がもつ別の意味の”反抗”、また自身が持つ社会に対する不満の意を込めた。

この地を訪れた子供達が、何事に対してもよく考えられる人間育ちますように

また日本共に海外からの来場者も多いこの地で、この作品が幅広く親しまれることを願う。

久田 真晴也

東京藝術大学デザイン科 1 年

くろしおいっしょにあそぼう通信

1. 事業の概要

○『くろしお』いっしょにあそぼう通信

『くろしお』いっしょにあそぼう通信は、高知県東部地域と徳島県南部地域に暮らす人たちが主催する青少年向け体験活動事業を集めた情報誌である。この情報誌の特徴は、様々な団体が主催する事業を1つの情報誌に取りまとめ、参加申込の手続きを事務局がすべて行ったところである。

○実施期間

令和元年度10月～12月

○対象者

高知県東部地域から徳島県南部地域の家庭及び青少年

○実施事業（8団体9事業）

- ・ときめき釣りロマン
- ・第16回ヤ・シカヤックマラソン in KOCHI
- ・イルカ飼育員プチお仕事体験
- ・熟練かまぼこ職人が造る工場見学
- ・くろしお200人キャンプ
- ・くろしお祭り
- ・あなたも自然案内人！「ネイチャーゲーム入門講座」
- ・かみかつ茅葺き学校～餅つきとしめ縄づくり～
- ・室戸「漁船に乗船していざ深海生物漁業体験」

2. 活動の様子

（1）ときめき釣りロマン

- | | | |
|--------|--------------|-------------------------|
| ① 期 日 | 第1回 | 令和元年11月9日（土）～11月10日（日） |
| | 第2回 | 令和元年11月16日（土）～11月17日（日） |
| ② 開催場所 | 徳島県立牟岐少年自然の家 | |
| ③ 対 象 | 小中学生とその保護者 | |
| ④ 参加人数 | 第1回 | 79人 第2回 80人 |



(2) イルカ飼育員プチお仕事体験

- ① 期 日 令和元年10月19日(土) 11:00~12:00
13:30~14:30
- ② 開催場所 室戸ドルフィンセンター
- ③ 対 象 家族
- ④ 参加人数 18人



(3) 熟練かまぼこ職人が造る工場見学

- ① 期 日 令和元年度11月9日(土) 9:00~10:00
- ② 開催場所 有限会社山本かまぼこ店
- ③ 対 象 家族
- ④ 参加人数 9人



(4) くろしお200人キャンプ

- ① 期 日 令和元年10月26日(土)~10月27日(日)
- ② 開催場所 国立室戸青少年自然の家
- ③ 対 象 小学3~6年生の児童
- ④ 参加人数 153人



(5) くろしお祭り

- ① 期 日 令和元年10月27日(日)
- ② 開催場所 国立室戸青少年自然の家
- ③ 対 象 どなたでも
- ④ 参加人数 302人



(6) あなたも自然案内人！「ネイチャーゲーム入門講座」

- ① 期 日 令和元年11月14日 10:00~15:00
- ② 開催場所 国立室戸青少年自然の家
- ③ 対 象 中学生以上
- ④ 参加人数 13人



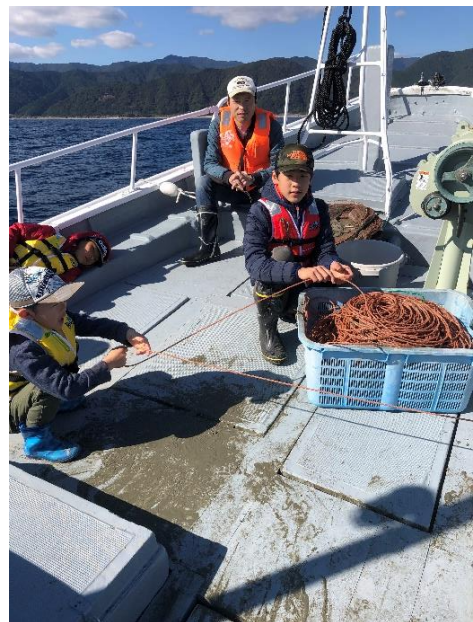
(7) かみかつ茅葺き学校～餅つきとしめ縄づくり～

- ① 期 日 令和元年12月21日(土)
- ② 開催場所 茅葺き民家 花野邸
- ③ 対 象 親子
- ④ 参加人数 15人



(8) 室戸「漁船に乗船していざ深海生物漁業体験」

- ① 期 日 令和元年度12月15日(日)
- ② 開催場所 佐喜浜港
- ③ 対 象 小学生以上の男女
- ④ 参加人数 8人



3. 成果と課題

○掲載団体からの声

- ・今までにない地域からの申し込みがあり、新たな地域からの参加者獲得につながった。
- ・事業前日に名簿をもらうだけで、事業の計画や実施を、余裕をもって行えた。
- ・個人経営店なので、こうして受付業務を行ってもらえることはとても楽だった。また、初めての事業実施だったが当日楽しく事業を行うことができた。

○成果

- ・テレビ高知の「がんばれ高知!!eco 応援団」において、掲載事業（あなたも自然案内人！「ネイチャーゲーム入門講座」）が取り上げられた。さらに、番組内にて、実行委員会の取り組みが紹介され、本運動の周知に繋がった。
- ・事務局が受付業務を行うことで、掲載団体の事業実施に係る事務的負担を軽減することができた。
- ・実施回数を調整することによって、定員を超えた事業でも、より多くの方に参加していただくことができた。

○課題

- ・新たな事業掲載団体の確保。
- ・より多くの参加者が集まるような事業内容及びチラシのレイアウトの検討。

管理運営報告

1. 職員の主な研修・講習等

- 「新任職員研修」 平成 31 年 4 月 4 日
(新規採用職員、人事交流職員及びその他の職員対象/ 4 名参加)
 - ・ 所の概況、実施事業及び利用者受入業務の内容説明、実践を重視した基礎的研修
- 「救急救命・AED講習会」 令和元年 7 月 17 日実施 (16 名参加)
 - ・ 室戸市消防署職員による講義及び実践練習。

2. 令和元年度国立室戸青少年自然の家運営協議会

【第 1 回】

日 時 令和元年 11 月 6 日 (水) 14 時～16 時
場 所 国立室戸青少年自然の家 研修室 1
出 席 者 川村響、坂井智空、清水幸一、竹中利文、高橋勇一郎 (原田代理)、松島弘、三觜
(敬称略) 美香、若月元樹 各委員 計 8 名
(欠席者: 植田壯一郎、倉橋伸寿、高橋聡、長尾洋行、松岡和也、山野貴志の各委員)

3. 栄典関係

当施設研修指導員の久保隆史氏が、平成 21 年以来現在に至るまで 10 年の長きにわたり、当施設の所有する船舶の管理運航業務及びミニクルージングの指導・助言、野外炊事等の野外活動、七宝焼き等のクラフト活動等様々な活動の指導を通して青少年の健全育成に尽力され、社会教育の振興に多大な貢献をされた功績により、令和 2 年 2 月 14 日に文部科学大臣から社会教育功労者表彰を受けられた。

久保隆史氏 略歴

平成 21 年 独立行政法人国立青少年教育振興機構国立室戸青少年自然の家指導員

平成 22 年 独立行政法人国立青少年教育振興機構国立室戸青少年自然の家研修指導員

4. 施設整備（主なもの）

○ロジットイレ改修工事

現在は洋式トイレの普及率が高く、和式トイレでは排便できない利用者が多いため、健康管理の面からも洋式化を行った。

○ロッジ壁塗装

経年により壁の汚れ・塗装の剥離が目立っており、外観美化を図るために行った。

○工作棟壁塗装及び床張替

経年により壁の汚れ・塗装の剥離及び床の汚れ・傷みが目立っており、外観美化を図るために行った。

○宿泊棟壁等塗装

経年・劣化等により内部塗装が剥離しており、外観美化のため、各棟の入口・玄関口・靴箱の塗装を行った。

○星を見る丘樹木伐採

樹木の成長により、展望台からの視界が妨げられていた。

室戸市の町並み及び太平洋が一望できるように、樹木の伐採を行った。

○講師室1（和室）ふすま等張替

経年により障子・ふすまのシミや破れが目立っており、外観美化のため張替を行った。

○多目的ホール2階アクリル板取付け

2階手摺り部分をベニヤ板で囲っていたが、アクリル板に取替え、ホール全体を明るくした。

○アートプロジェクト

東京藝術大学の学生を中心に、当施設のセンター棟、食堂棟、浴室棟等の壁面及びスロープに壁画を創作した。完成した作品は、国立室戸青少年自然の家を訪問した子供たちが自由に鑑賞できるようにする。

○当施設職員による模様替え等

当施設職員の創意工夫により、多目的ホールカーペット張替、チップ材による木段・遊歩道等の整備、桜の苗植樹、炭窯屋根修理等を行った。

5. 施設設備（主なもの）

○タッチプール車

教育設備の整備に係る本部予算により、タッチプール車を購入した。

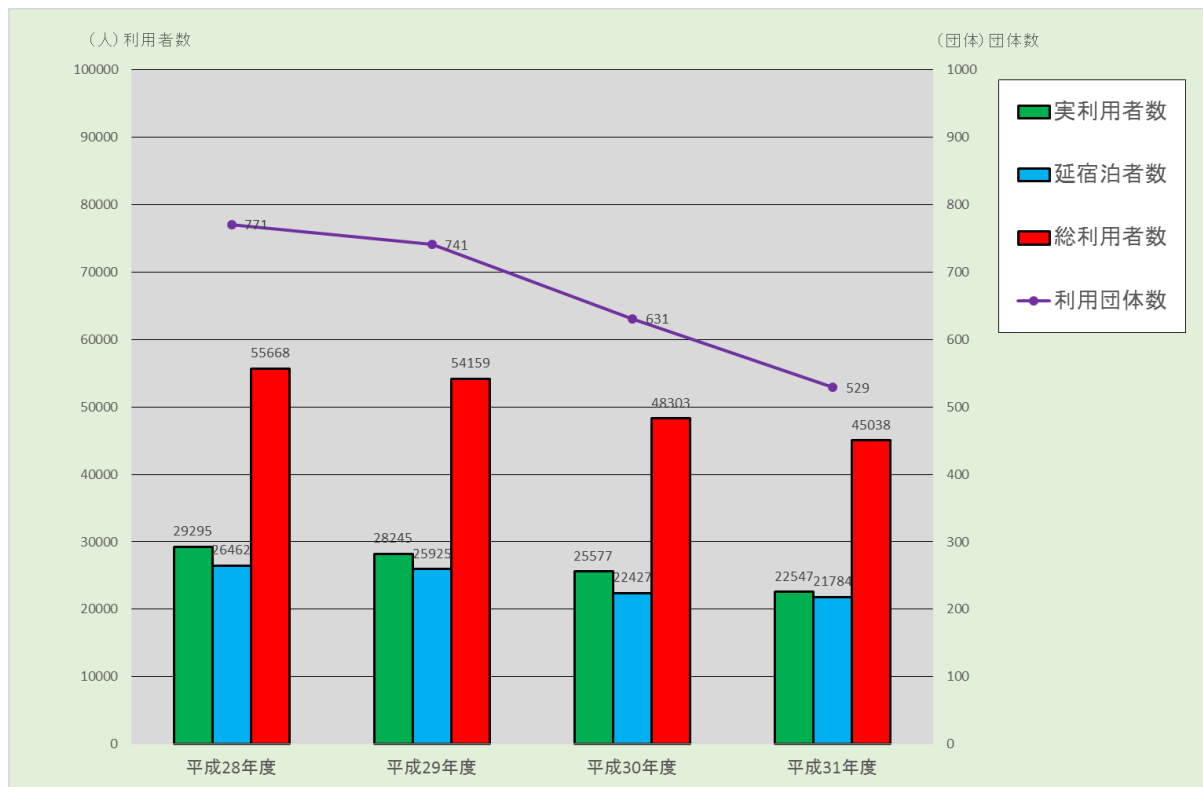
広 報 活 動

広報活動として様々なイベントブースを出展したり、出張指導を行ったりして施設のPRを行った。

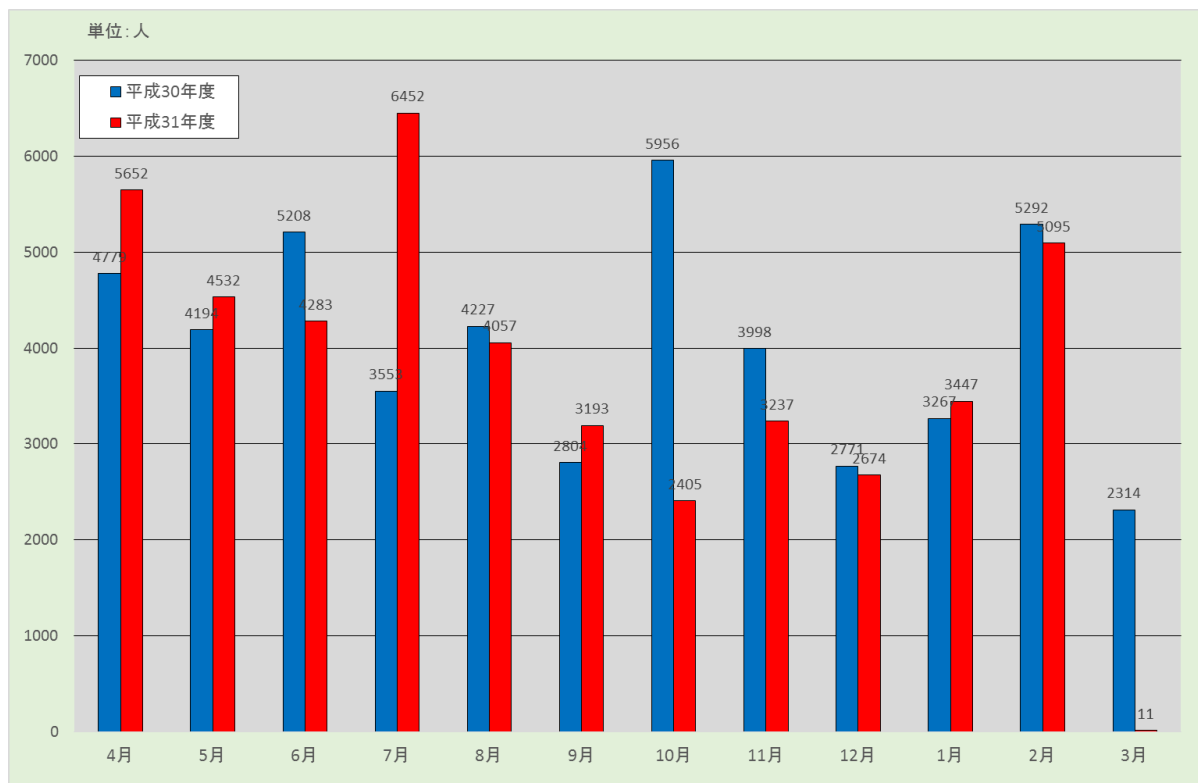
番号	日時	研修会名	会場	内容	人数
1	4月2日	高知大学 新入生オリエンテーション	高知大学	新入生オリエンテーション	462
2	16日	田野幼稚園 幼児の運動プログラム	田野幼稚園	乳幼児期の運動プログラム提供	52
3	5月21日	田野幼稚園 幼児の運動プログラム	田野幼稚園	乳幼児期の運動プログラム提供	52
4	6月4日	田野幼稚園 幼児の運動プログラム	田野幼稚園	乳幼児期の運動プログラム提供	52
5	6月12日	高知大学リーダーシップセミナー	高知大学 朝倉キャンパス	サークルに向けての広報	50
6	24日	田野幼稚園 幼児の運動プログラム	田野幼稚園	乳幼児期の運動プログラム提供	52
7	8月3日	わくわく発見！夏休み 一日先生がやってくる	室戸ジオパークセンター	昆虫の先生	184
8	19日	田野幼稚園 幼児の運動プログラム	田野幼稚園	乳幼児期の運動プログラム提供	52
9	24日	わくわく発見！ 夏休み まがりラボ	室戸ジオパークセンター	クラフト出展（流木クラフト）	18
10	31日	わくわく発見！ 夏休み まがりラボ	室戸ジオパークセンター	クラフト出展（流木クラフト）	18
11	9月2日	日和佐小学校 早寝早起き朝ごはん	日和佐小学校	早寝早起き朝ごはんの指導	169
12	9月7日	高知県保育士会	高知市東部総合運動場・体育センター	幼児の運動遊びプログラム研修	87
13	9月28日	高知県保育士会	安芸市総合社会福祉センター	幼児の運動遊びプログラム研修	38
14	10月19日	高知県保育士会	佐川町総合文化センター	幼児の運動遊びプログラム研修	35
15	19日	体験フェスティバルin交流の家 ブース出展	国立大洲青少年交流の家	クラフト出展（流木クラフト）	109
16	20日	室戸岬健康マラソン大会	室戸市	共催、大会運営補助	970
17	24日	東洋町立野根小学校 防災教室	野根小学校	活動プログラム指導	31
18	11月3日	高知大学物部キャンパス一日公開	高知大学 物部キャンパス	クラフト出展（流木クラフト）	330
19	5日	田野幼稚園 幼児の運動プログラム	田野幼稚園	乳幼児期の運動プログラム提供	52
20	9日	えひめ生涯学習ゆめまつり	松山市総合コミュニティセンター	クラフト出展（流木クラフト）	81
21	10日	甬喜ヶ峰フェスティバル2019	甬喜ヶ峰森林公園	クラフト出展（流木クラフト）	76
22	10日	むろとまるごと産業まつり	海の駅とろむ	共催・クラフト出展（流木クラフト）	3,000
23	10日	安芸おひさま保育所 海からの贈り物	安芸おひさま保育所	ビーチコーミング・フォトフレームづくり	36
24	10日	えひめ生涯学習ゆめまつり	松山市総合コミュニティセンター	クラフト出展（流木クラフト）	62
25	24日	ヤシィパーク 秋祭り	ヤシィパーク	クラフト出展（流木クラフト）	237
26	12月16日	田野幼稚園 幼児の運動プログラム	田野幼稚園	乳幼児期の運動プログラム提供	52
27	1月17日	田野幼稚園 幼児の運動プログラム	田野幼稚園	乳幼児期の運動プログラム提供	55
28	1月27日	高知県保育士会	高知県立ふくし交流プラザ	幼児の運動遊びプログラム研修	48
29	2月4日	田野幼稚園 幼児の運動プログラム	田野幼稚園	乳幼児期の運動プログラム提供	53
30	9日	室戸市観光びらき	室戸岬	クラフト出展（流木クラフト）	49
31	15日	室戸ユネスコ世界ジオパーク スプリングフェスティバル	イオンモール高知	クラフト出展（流木クラフト）	131
32	23日	むろと2000本桜祭り	高知県立室戸広域公園	共催、大会運営補助	1,800

利 用 実 績

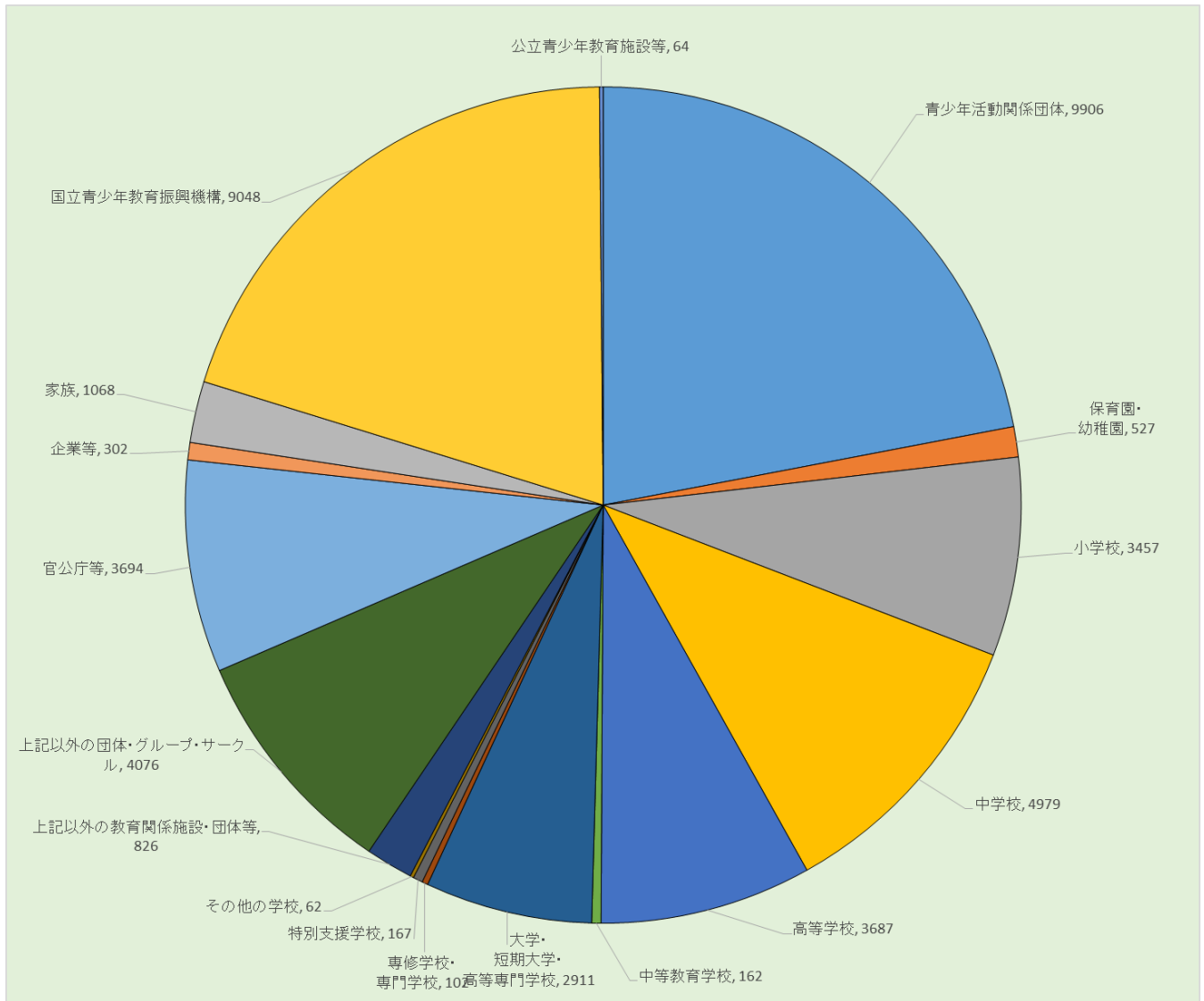
【年度別利用状況】



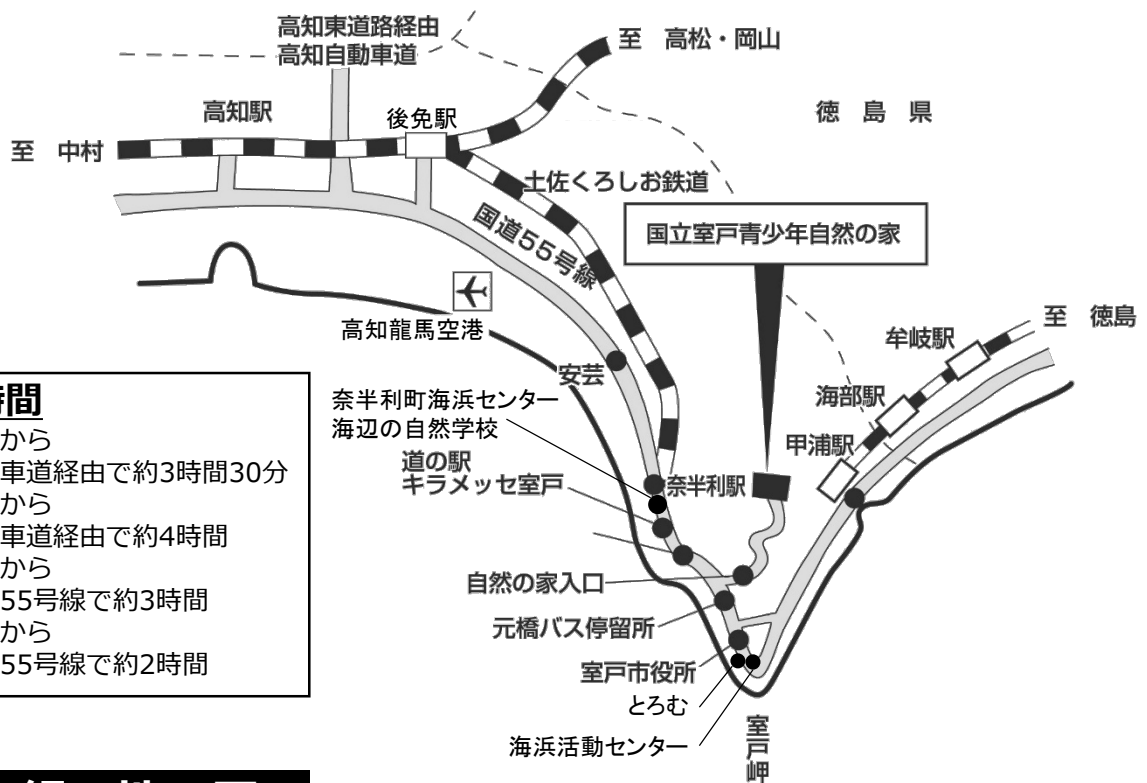
【月別稼働数】



【団体種別稼働数】



交通案内

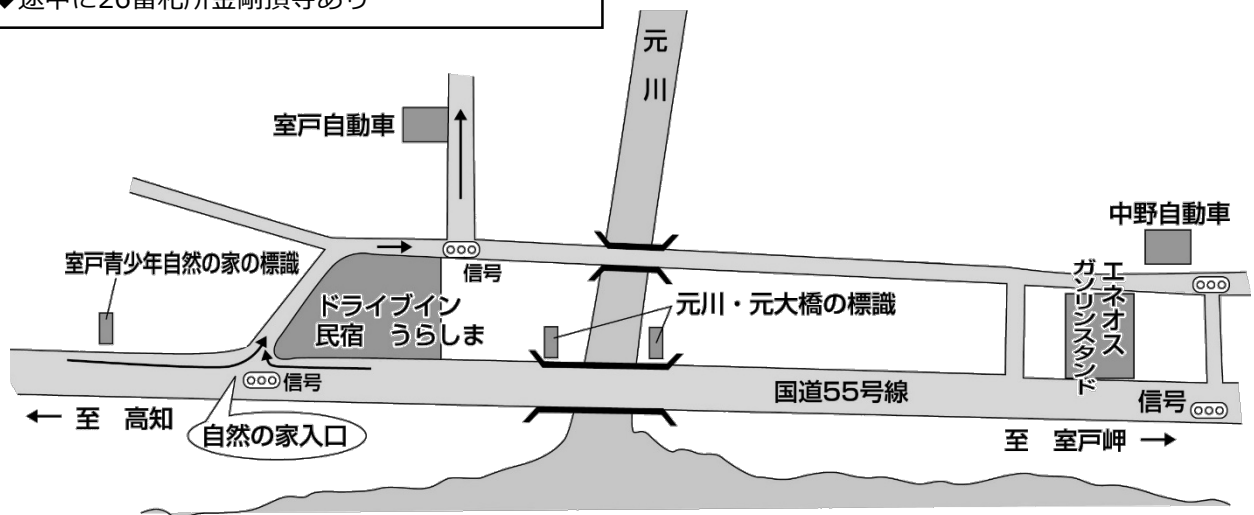


所要時間

- ◆高松市から
自動車道経由で約3時間30分
- ◆松山市から
自動車道経由で約4時間
- ◆徳島市から
国道55号線で約3時間
- ◆高知市から
国道55号線で約2時間

詳細地図

- ◆自然の家の標識から当所まで約5 km、約15分
- ◆途中に26番札所金剛頂寺あり



独立行政法人国立青少年教育振興機構

国立室戸青少年自然の家

〒781-7108 高知県室戸市元乙1721

Tel. 0887-23-2313 Fax. 0887-23-2484

E-mail. muroto@niye.go.jp

ホームページ. <https://muroto.niye.go.jp/>